



八戸市スポーツ推進計画



平成31年3月
八戸市

《表紙写真》

[上 段]

八戸ちびっこマラソン （出典：エスプロモ株式会社）

[下 段]

かおりカップスーパーキッズレスリング

選手権大会レスリング教室 （出典：八戸市）

八戸うみねこマラソン全国大会 （出典：八戸市）

長根リンククロージングイベント （出典：八戸市）

フィギュア教室初心者コース （出典：エスプロモ株式会社）

(仮称) 八戸市スポーツ推進計画

－ 目 次 －

第1章 計画策定に当たって	1
1-1 計画策定の背景	1
1-2 計画の位置づけ	1
1-3 計画期間	2
1-4 計画策定の流れ	3
第2章 本市のスポーツを取り巻く現状と課題	4
2-1 本市におけるスポーツ活動等の現状	4
2-2 スポーツ施設の現状	16
2-3 スポーツ大会、イベントの開催状況	31
2-4 現状からみた課題	34
第3章 計画の基本方針と目標	37
3-1 本計画の基本方針	37
3-2 スポーツ推進の基本目標	38
第4章 施策の推進	41
4-1 基本目標Ⅰに対する施策	41
4-2 基本目標Ⅱに対する施策	45
4-3 基本目標Ⅲに対する施策	47
第5章 計画の実現に向けて	49
5-1 関係する主体と基本的な役割	49
5-2 計画の進行管理体制	49
5-3 計画の進行管理・マネジメント	50
(仮称) 八戸市スポーツ推進計画策定意見交換会参集人員名簿	51

第 1 章 計画策定に当たって

第1章 計画策定に当たって

1-1 計画策定の背景

本市では、「第6次八戸市総合計画」において、「ひと・産業・文化が輝く北の創造都市」を目指すべき姿とし、その実現に向けて総合的に取り組むべき政策の1つとして「文化・スポーツ・観光」を掲げています。その中で、「スポーツ活動の促進」「競技力の向上」「地域スポーツの活性化」「氷都八戸の再生」を施策・事業の柱とし、「長根屋内スケート場」の整備、「大学等と連携したスポーツ教室の開催、指導者の育成」「地元プロスポーツチームとの交流イベント・応援体制の構築」など、様々なスポーツ施策の推進を図っているところです。

なお、国では、平成23年6月に「スポーツ基本法」を制定し、スポーツに関する基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務を明確にしており、これに基づき、青森県では、「青森県スポーツ推進計画」（平成28～33年度）を策定しています。

本計画は、これら国・県の動向及び本市がこれまで実施してきたスポーツ施策と現在の本市のスポーツを取り巻く環境変化を踏まえ、子どもから高齢者・障がい者、また、普段スポーツをあまりしない人・する人といったあらゆる市民が、様々な形でスポーツに関わることにより、健康で、生きがいを感じることができるような施策を効果的かつ効率的に推進するための「スポーツ版マスタープラン」として策定するものです。

本計画では、ルールが決められ、勝敗や記録を競う競技スポーツだけではなく、気軽に楽しめるアウトドア体験や散歩など、気晴らしをする、楽しむ、遊ぶなどの様々な目的を持った運動の全てをスポーツとして捉え、スポーツを「する」「みる」「ささえる」といろいろな形で、誰もが気軽に楽しめるものとして扱います。

1-2 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法第10条に規定する「地方スポーツ推進計画」であり、国の「スポーツ基本計画」、県の「青森県スポーツ推進計画」との連携、整合を図って策定します。また、平成27年9月に策定した「第6次八戸市総合計画」の基本方針を踏まえ、同計画とともに本市の将来像である「ひと・産業・文化が輝く北の創造都市」の実現を目指すものです。

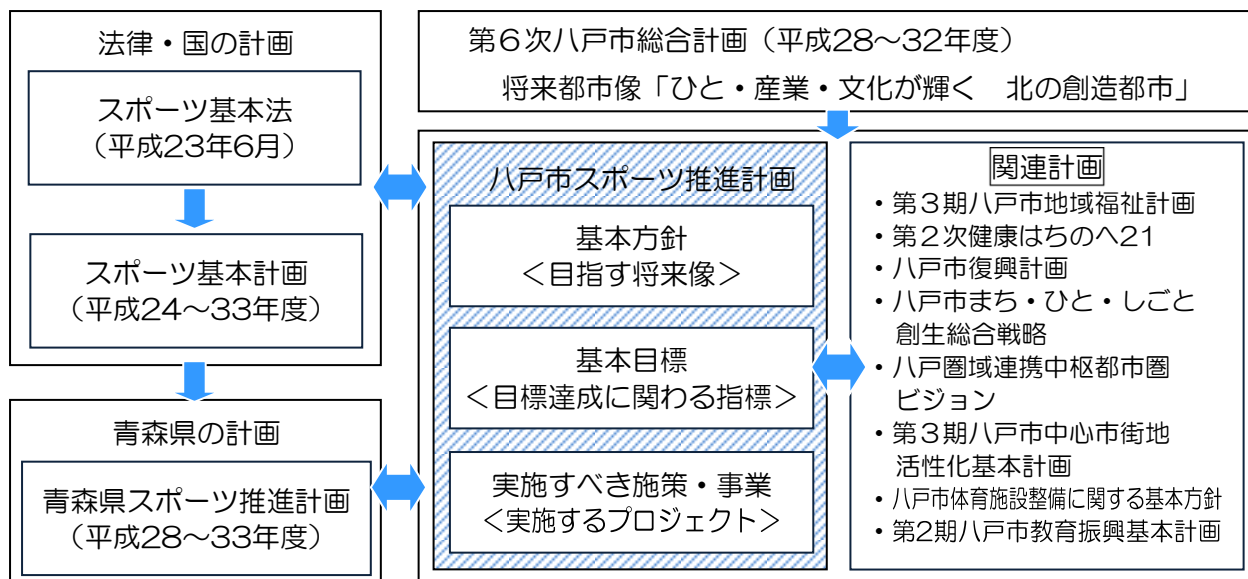


図 1-1 計画の位置づけ

1-3 計画期間

本計画の期間は2019年度から2028年度までの10年間とします。

ただし、上位計画である「第6次八戸市総合計画」の計画期間終了に伴う次期計画策定において、当該計画における役割が大きく見直されることとなった場合、若しくは、同時期に実施する事業進捗の確認やモニタリングの実施において、本計画に定める目標と実績とに大きな乖離がある場合には、本計画の見直しを行うものとします。

また、計画期間終了時においては、計画期間全体の施策・事業の進捗確認及び効果検証し、それらを踏まえて次期計画を策定します。

計画期間

2019～2028年度《10年間》

年度（西暦）		2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028		
スポーツ関連イベント			※ 1	※ 2	ワールド マスターズ ゲームズ 2021関西	北京冬季 オリンピック ・パラリン ピック			第80回 国民スポ ーツ大会 (青森県)					
上位・ 関連計画	青森県スポーツ推進計画	青森県スポーツ推進計画 (2016～2021)					※ 1 2019年度スポーツ関連イベント ・ラグビーワールドカップ ・第75回国民体育大会冬季大会 (八戸市・三沢市・南部町)							
	第 6 次八戸市総合計画	第 6 次八戸市総合計画 (2016～2020)												
	第 3 期八戸市地域福祉計画	八戸市地域福祉計画 (2016～2020)					※ 2 2020年度スポーツ関連イベント ・東京オリンピック・パラリンピック ・ISU世界ジュニアスピードスケート選手権大会							
	第 2 次健康はちのへ21	第 2 次健康はちのへ21 (2013～2022)												
	八戸市復興計画	八戸市復興計画 (2011～2020)												
	八戸市まち・ひと・しごと 創生総合戦略	創生総合戦略 (2015～2019)												
	八戸圏域連携中枢都市圏 ビジョン	八戸圏域連携中枢都市圏ビジョン (2017～2021)												
	第 3 期八戸市中心市街地 活性化基本計画	第 3 期八戸市中心市街地活性化基本計画 (2018～2023)												
	八戸市体育施設整備に 関する基本方針		八戸市体育施設整備に関する基本方針 2019.03～											
第2期八戸市教育振興基本計画	第2期八戸市教育振興基本計画 (2018～2023)													
年度（西暦）		2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028		
本計画	八戸市スポーツ推進計画	計画 策定	八戸市スポーツ推進計画 (2019～2028)										次期 計画	
								計画 見直し・改定						
								計画に位置づけた事業の実施						
								事業の継続・見直し						
								事業改善						
								効果検証						
			指標別各種調査の実施（調査によって毎年実施、隔年実施）											

■ ゴールデンスポーツイヤーズ（ラグビーワールドカップ2019、2020東京オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ2021関西）

1-4 計画策定の流れ

本計画の策定に当たっては、本市の人口動態、都市構造の変化、スポーツを取り巻く現状について、既存データの整理や各種アンケート調査等を実施し、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」の3つの視点から課題を整理した上で、それらを踏まえた本市が目指す将来像の実現に向けた基本方針・目標、具体的に取り組むべき施策・プロジェクトの検討を行いました。

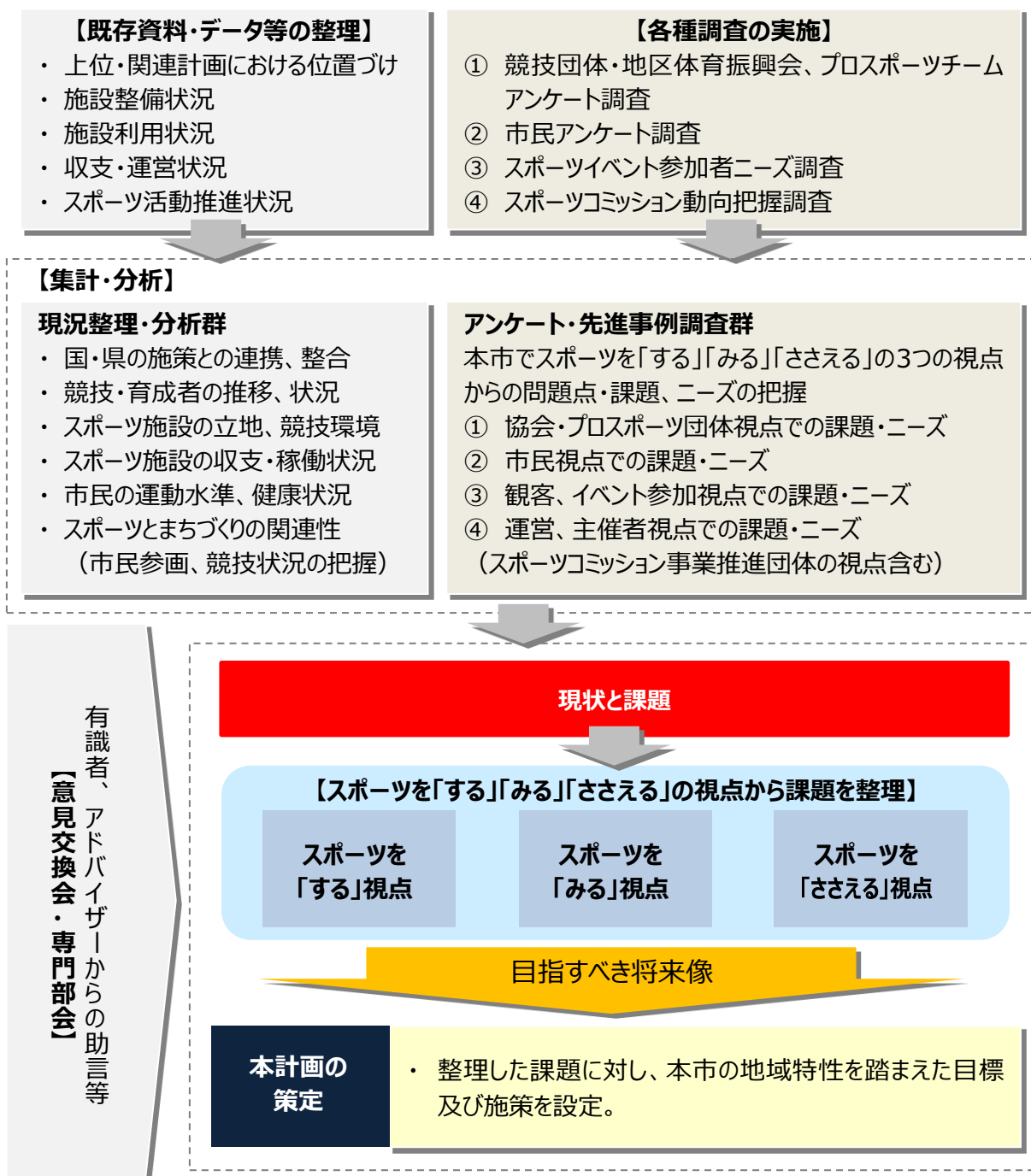


図 1-2 計画策定の流れ

第 2 章 本市のスポーツを取り巻く現状と課題

第2章 本市のスポーツを取り巻く現状と課題

2-1 本市におけるスポーツ活動等の現状

(1) 人口動態（少子化・高齢化の進展）

①人口の推移

本市の人口は、平成29年には230,738人となっており、平成20年の人口に比べ5.3%（12,944人）の減少となっています。

一方で、世帯数は増加傾向がみられ、平成29年には107,972世帯となっており、1世帯当たりの人口は2.14人/世帯となっています。

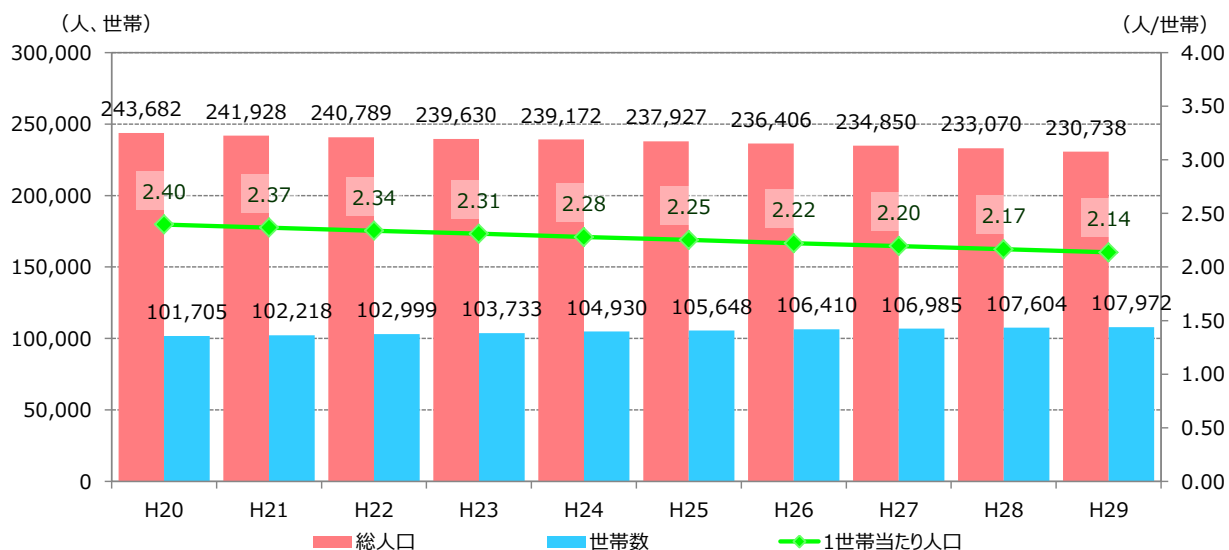


図 2-1 人口の推移

資料：八戸市

②世代別人口の推移

本市の世代別人口は、平成29年には年少人口（15歳未満）が27,612人、生産年齢人口（15～64歳）が135,899人、老年人口（65歳以上）が67,227人となっています。

世代別人口割合の推移をみると老年人口が増加傾向にあり、平成29年には人口の約3割を占めています。また、年少人口と生産年齢人口では減少傾向がみられます。

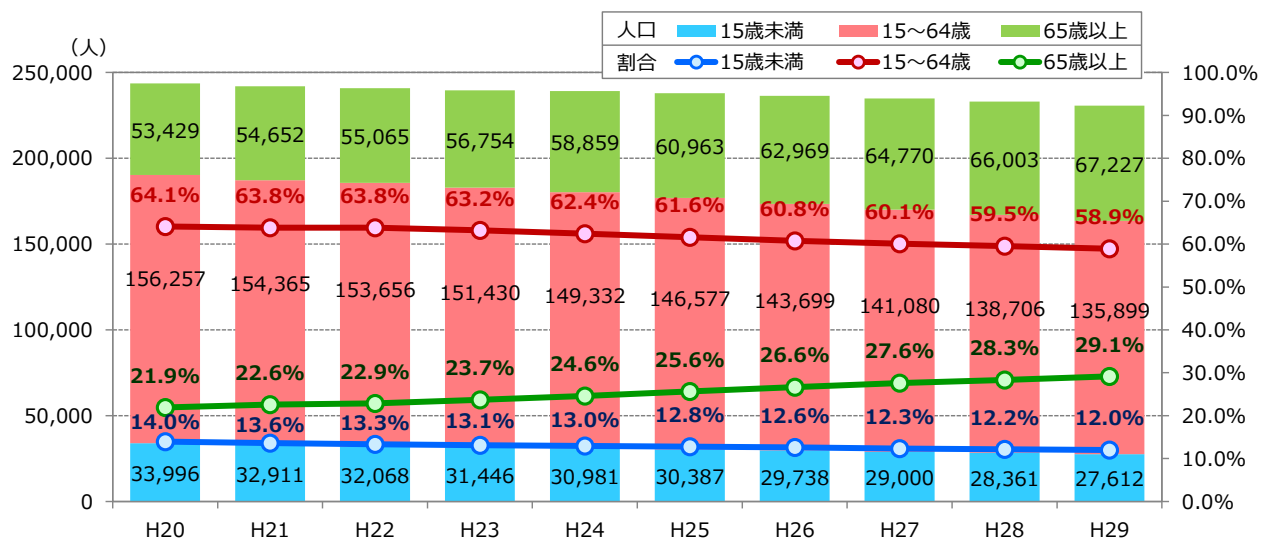


図 2-2 世代別人口の推移（年度別）

資料：八戸市

③人口の分布状況

本市の人口分布状況は下図のとおりです。

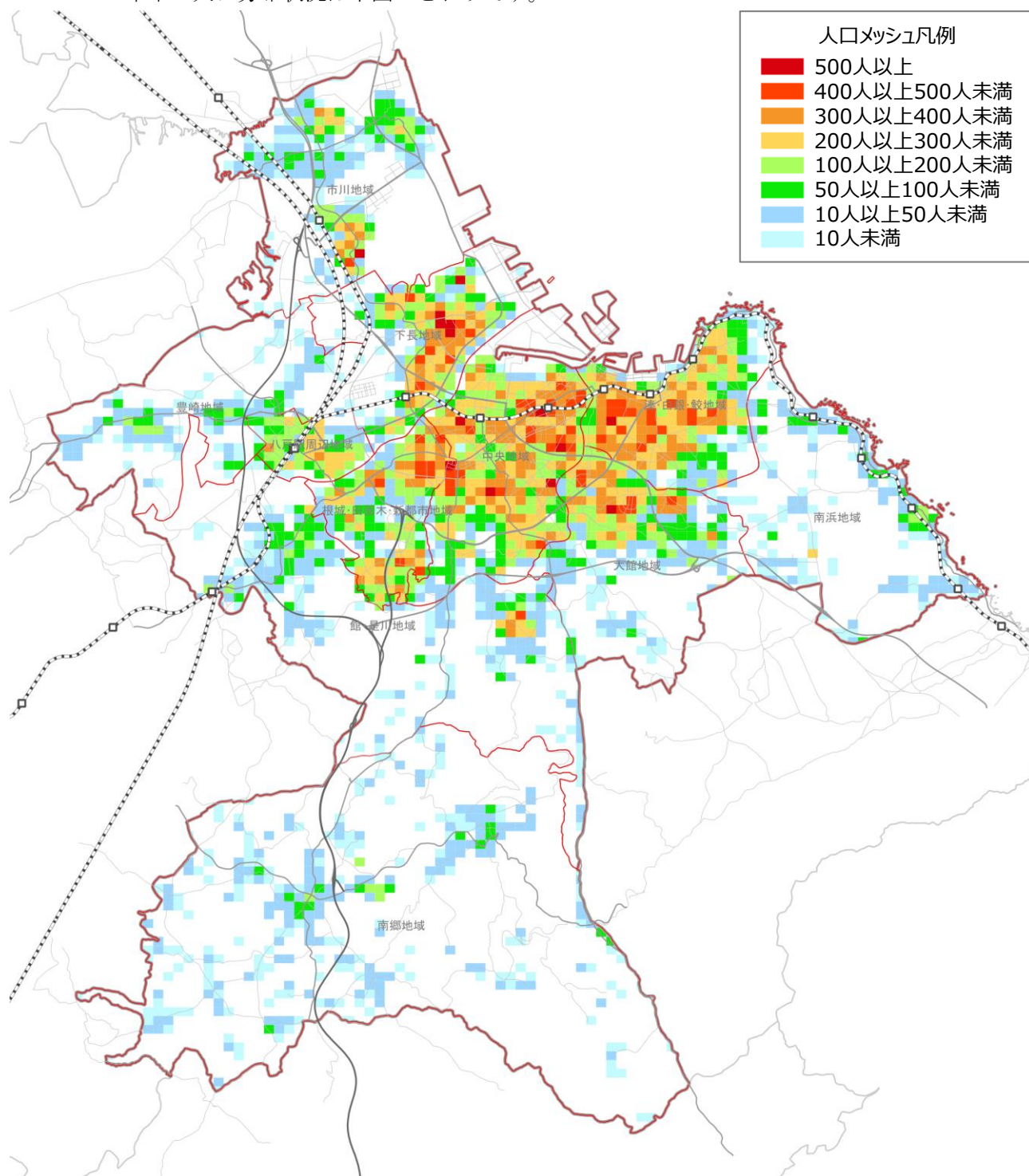


図 2-3 人口の分布状況

資料：平成27年国勢調査

④将来人口の推移

本市では、平成27年10月に策定した「八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、出生率の向上や平均寿命の延伸、人口流出の歯止めといった人口減少克服に関する仮定を設定し、それらが実現する場合の将来人口について、2060年には167,626人と、平成27年（2015年）と比較して27.0%減少すると予測しています。

また、2060年の世代別の人口割合は、年少人口（15歳未満）が14.4%、生産年齢人口（15～64歳）が51.2%、老年人口（65歳以上）が34.4%と予測しており、生産年齢人口の割合が減少し、老年人口の割合が増加することが想定されます。

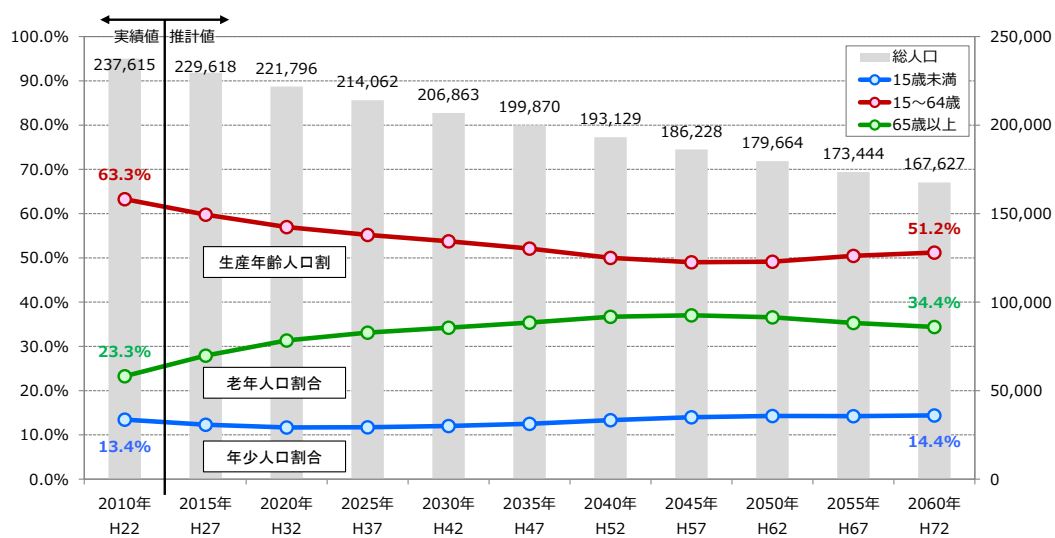


図 2-4 将来人口の推移

資料：八戸市

⑤小・中学校の統廃合状況

本市では、平成20年以降、小学校7校、中学校2校が統合で閉校となり、平成29年4月には西白山台小学校が新設で開校しました。

平成30年4月現在の学校数は、小学校が43校、中学校が24校となっています。

表 2-1 小・中学校の統廃合状況

区分	学校名	備考
小学校	図南小学校	
	番屋小学校	平成23年4月1日 八戸市立図南小学校と統合
	是川小学校	
	是川東小学校	平成27年4月1日 八戸市立是川小学校と統合
	新井田小学校	
	松館小学校	平成27年4月1日 八戸市立新井田小学校と統合
	南郷小学校	平成28年4月1日 開校
	市野沢小学校	平成28年4月1日 八戸市立南郷小学校新設による統合
	中野小学校	平成28年4月1日 八戸市立南郷小学校新設による統合
	鳩田小学校	平成28年4月1日 八戸市立南郷小学校新設による統合
中学校	島守小学校	
	田代小学校	平成29年4月1日 八戸市立島守小学校と統合
	西白山台小学校	平成29年4月1日 開校
	東中学校	
	美保野中学校	平成25年4月1日 八戸市立東中学校と統合
中学校	島守中学校	
	田代中学校	平成29年4月1日 八戸市立島守中学校と統合

資料：八戸市教育委員会

(2) 市民のスポーツ活動の現状

①小・中学生のスポーツ活動状況（部活動等）

競技団体別スポーツ団体数では、小学生向け、中学生向けともバスケットボール、野球、サッカー、卓球が多く、そのほかに小学生向けでは水泳、中学生向けではバレーボール、ソフトテニスの団体数も多くなっています。

運動部活動数では、小学校、中学校とも、野球やバスケットボールが多く、中学校では、アイスホッケーの部活動もみられます。

小・中学校の部活動の推移をみると、部活動数と加入者数は年々減少傾向で、小学校スポーツ活動の運営形態は、学校主体で運営する「学校型」から保護者や地域主体で運営する「地域型」や保護者・地域主体で学校も運営を支える「学校地域型」へ移行する学校が増加していますが、平成29年では、「学校型」の割合が最も高い状況です。

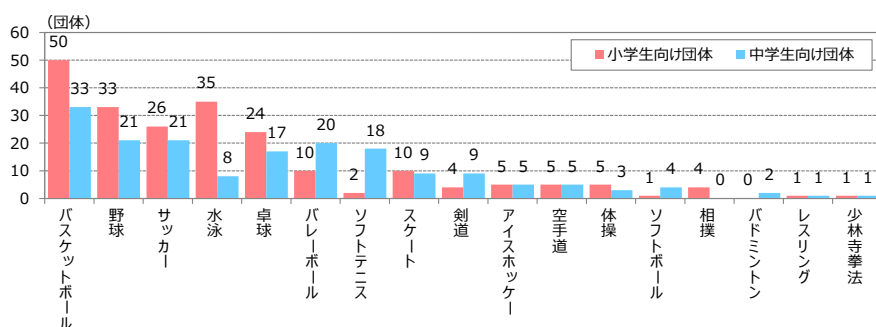


図 2-5 競技団体別小・中学生向けスポーツ団体数（平成29年）

資料：八戸市

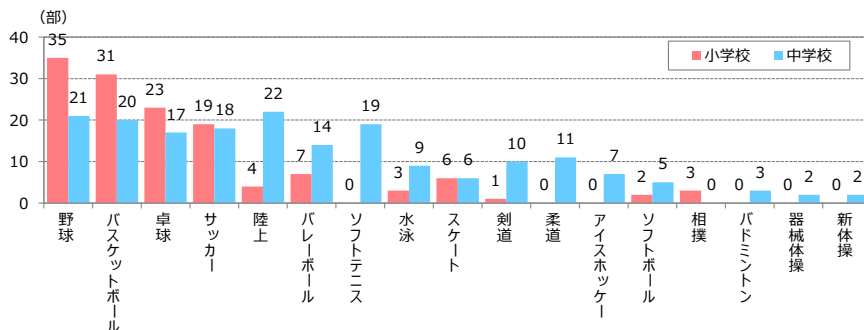


図 2-6 小・中学校の運動部活動数（平成29年）

資料：八戸市教育委員会

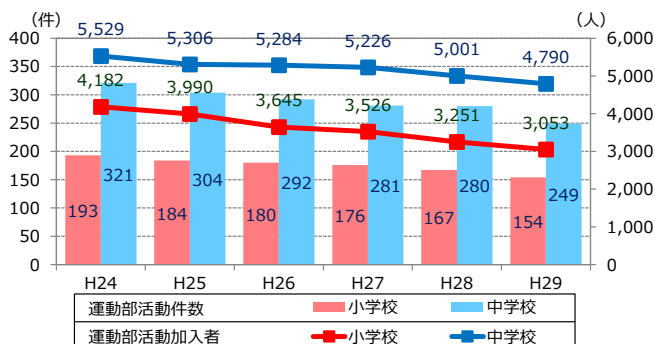


図 2-7 小・中学校の運動部活動推移

資料：八戸市教育委員会

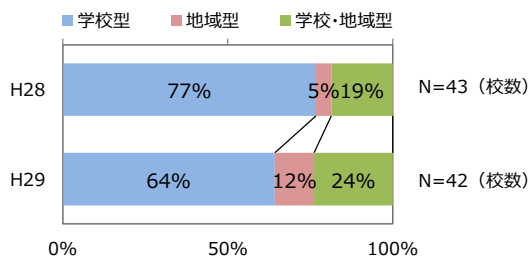


図 2-8 小学校のスポーツ活動運営形態推移

資料：八戸市教育委員会

②高校・大学・成人におけるスポーツ活動状況

競技別のスポーツ団体数は、高校生向けではバスケットボールやバレーボール、大学生向けではサッカー、成人向けではサッカーやバレーボールの団体数が多く、大学生向けは、競技種目及び団体数が少なくなっています。

高校生向けは、小・中学生向けと比較すると競技種目が増加しており、団体数が多くみられたバスケットボール、野球、サッカーの団体数が減少しています。

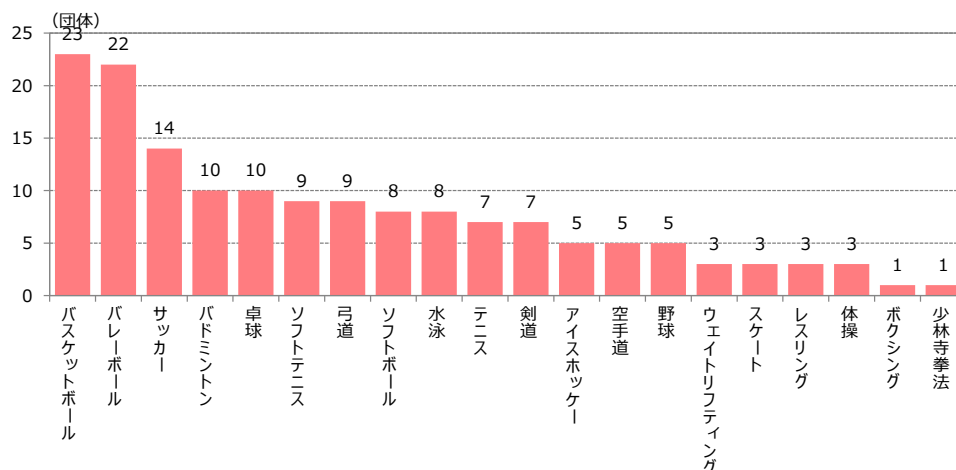


図 2-9 競技団体別高校生向けスポーツ団体数（平成29年）

資料：八戸市

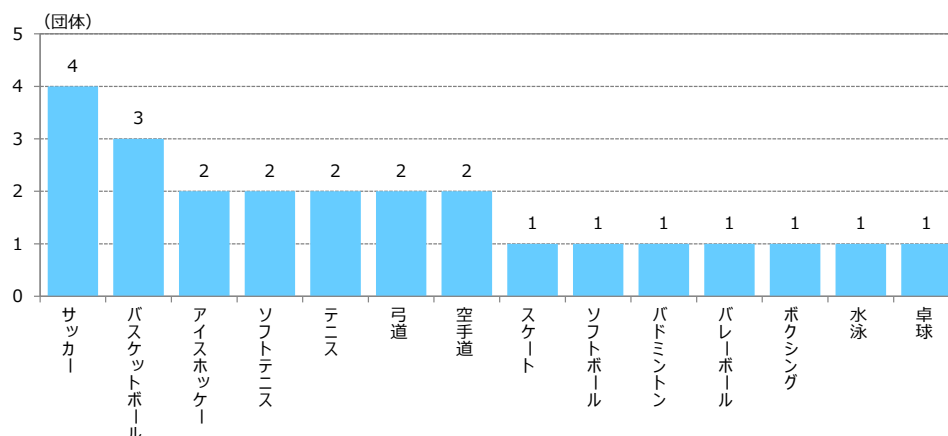


図 2-10 競技団体別大学生向けスポーツ団体数（平成29年）

資料：八戸市

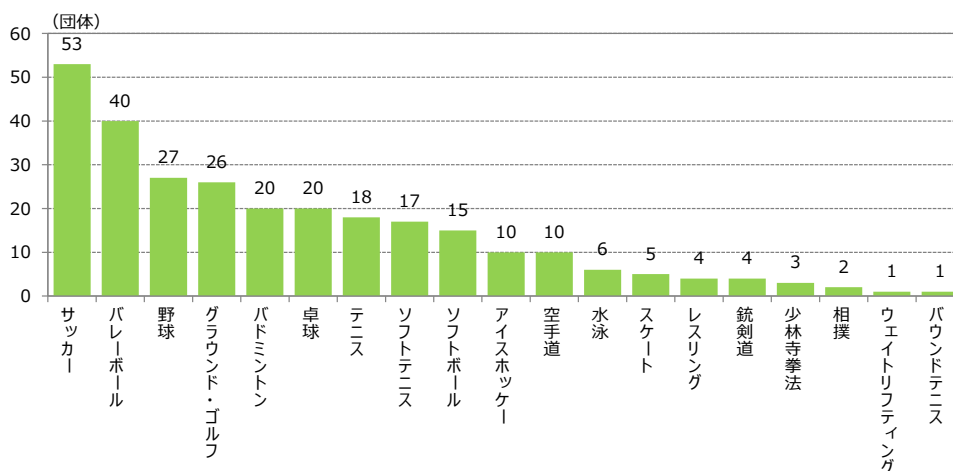


図 2-11 競技団体別成人向けスポーツ団体数（平成29年）

資料：八戸市

※以上、①、②の「八戸市資料」とあるものは、八戸市体育協会所属の35の競技団体を対象にアンケートを実施し、27団体から得た回答を基にまとめた内容のため、当該協会に所属していない青森県高等学校野球連盟所属の高校野球や、素人アイスホッケー協会所属のチーム等は含まれない。

③障がい者スポーツに関する市の主な取組

障がいのある人にとっては、運動・スポーツが健康維持や自立、社会参加の促進に役立つなど重要な手段となっています。本市では、勤労身体障がい者のスポーツの普及振興を図ることで、健康の増進と勤労意欲の高揚に資するため八戸市福祉体育館を設置し、身体障がい者等への無料貸し出しを行っているほか、当該施設での障がい者スポーツ用具の無料貸し出しや、他の市有スポーツ施設の個人利用に係る利用料金の無料化に取り組んでいます。

表 2-2 障がい者に向けた市の取組

	概要
八戸市福祉体育館の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勤労身体障がい者のスポーツの普及振興を図ることで、健康の増進と勤労意欲の高揚に資するため設置。身体障がい者が利用しやすいように配慮された施設。 ・ 身体障がい者等は無料で使用でき、それ以外の人も有料で利用可能。
障がい者スポーツ用具の無料貸し出し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康や福祉の増進や地域における障がい者スポーツの普及のために、障がい者スポーツ用具を無料で貸し出し。（平成26年10月より実施） <p>【貸し出しするスポーツ用具】 ボッチャ、鈴入りバレーボール、ゴールボール、フライングディスク、ファインボール</p>
市スポーツ施設利用料の無料化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者手帳の交付を受けている個人及び介護人（一人）が、市内のスポーツ施設を利用する場合、利用料金を無料化。（平成29年10月より実質無料化開始） <p>【対象となるスポーツ施設】（下記施設の温水プール、トレーニング室等の個人利用） 長根公園、新井田公園、東運動公園、屋内トレーニングセンター 南部山健康運動公園、南郷カッコーの森エコーランド</p>

④中高年及び高齢者の運動習慣の状況

本市では、「壮年期死亡の減少」「健康寿命の延伸」及び「生活の質の向上」を目的に、生活習慣病の予防を重視した健康づくり運動を市民と一緒に推進しています。平成27年度の調査結果では、40歳～74歳の運動習慣者の割合は、男性が43.7%、女性が37.5%で、男性、女性とも青森県より高くなっています。

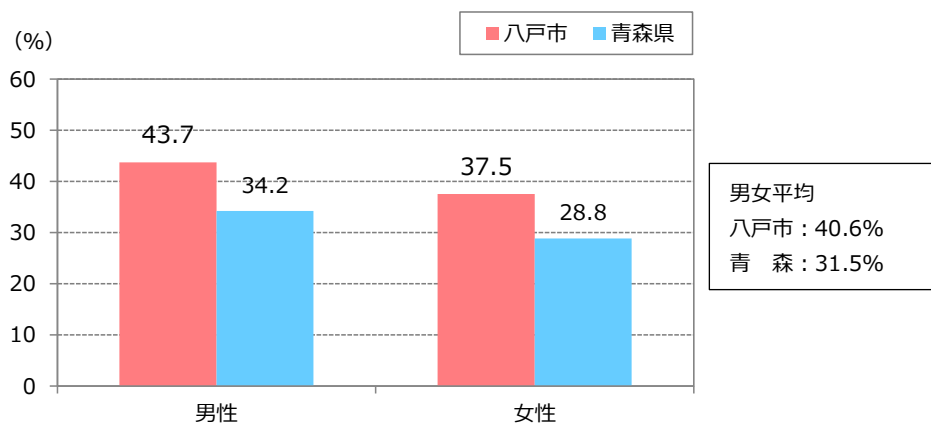


図 2-1 2 成人の運動習慣者の割合（平成27年度）

※運動習慣者とは、1日30分以上軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上実施している人を表します。

出典：八戸市

⑤市民ニーズ・意識調査結果（WEB調査結果）

【スポーツの実施状況等】

市民の運動量、スポーツの実施状況をみると「普段の運動が足りている」、「普段からスポーツをしている」と答えた人の割合が、それぞれ全体で2割以下となっており、特に20～50代での割合が低くなっています。

実施している種目をみると、様々な種目に渡っている中で「ウォーキング」や「ジョギング」など、手軽で特に道具や場所を必要としないものを実施している人が多くなっている一方、「氷都八戸」を代表する「アイスホッケー」や「スケート」をスポーツとして実施していると答えた人は、極めて少数となっていました。

また、普段スポーツをしていない人がスポーツをするために望むこととしては、「施設利用料金の無料化又は低料金化」が多く挙げられました。

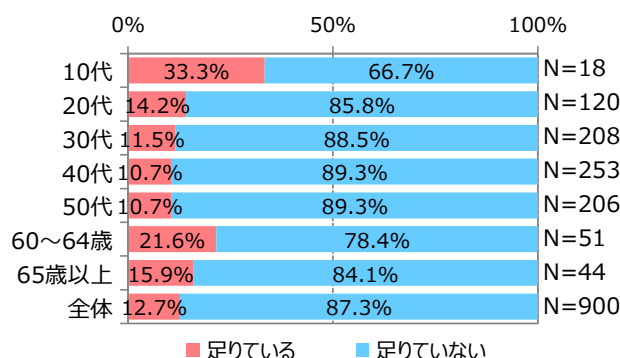


図 2-1 3 健康上、運動量は足りているか

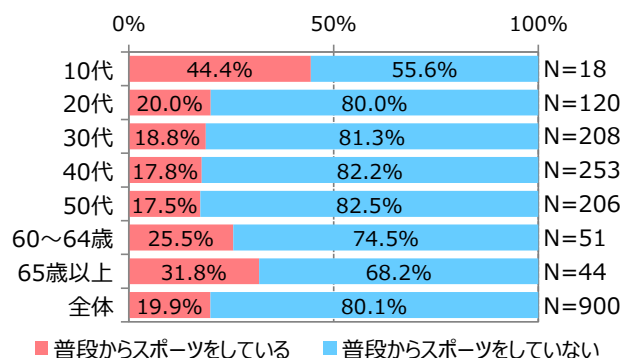


図 2-1 4 年代別のスポーツ実施状況

(MA=229)

(N=179)

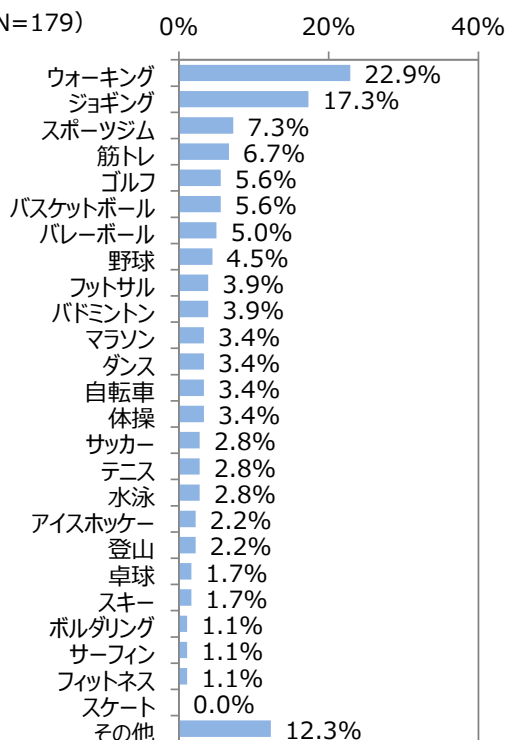


図 2-1 5 実施しているスポーツ

表 2-3 どのような環境になればスポーツをするか

年代別	優先度の高い項目		
	1位	2位	3位
10代	やりたいスポーツができる施設がある	運動スペース	施設利用料金の設定（無料や低料金）
20代	やりたいスポーツができる施設がある	施設利用料金の設定（無料や低料金）	駐車場
30代	施設利用料金の設定（無料や低料金）	やりたいスポーツができる施設がある	駐車場
40代	施設利用料金の設定（無料や低料金）	やりたいスポーツができる施設がある	駐車場
50代	施設利用料金の設定（無料や低料金）	駐車場	やりたいスポーツができる施設がある
60～64歳	駐車場	施設利用料金の設定（無料や低料金）	トイレ
65歳以上	駐車場	施設利用料金の設定（無料や低料金）	施設までのアクセス
全体	施設利用料金の設定（無料や低料金）	やりたいスポーツができる施設がある	駐車場

資料：本計画策定に当たり市民を対象に実施したアンケート調査結果

【スポーツの観戦状況等】

市民のスポーツ観戦状況では、「市内で実際に会場に行って観戦している」と答えた人が全体で21.6%となっており、特に60代前半の観戦割合が低くなっています。

また、どのようになれば観戦するかについては、「観戦したいスポーツの開催」、「駐車場」、「観戦費用」の他、「家族や友人からの誘い」も挙げられています。

観戦している種目をみると、市内にプロスポーツチームのある「サッカー」と「アイスホッケー」が多く、全体の約6割を占めている一方で、観戦したい種目としては「野球」が最も多くなっています。また、観戦したい種目で「スケート」と「アイスホッケー」を合わせた割合は、1位の野球と同じ23.2%となり、「氷都八戸」ならではの地域特性が伺えます。

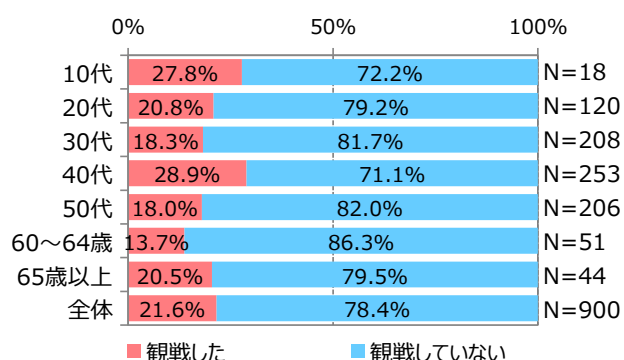
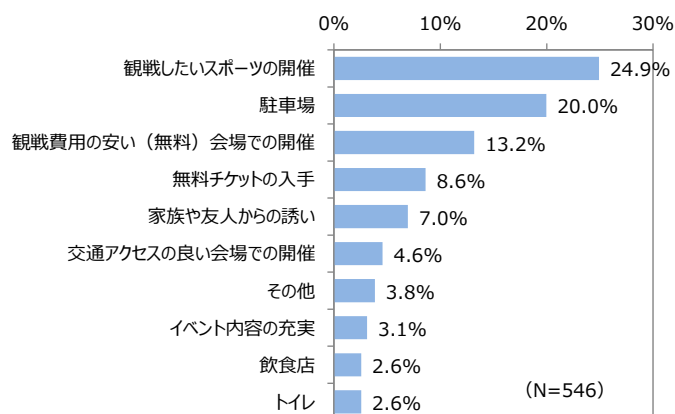


図 2-16 年代別のスポーツ観戦状況



※「どのような環境になっても観戦しない」を除く

図 2-17 どのようになれば観戦するか 上位10項目（観戦していない方）

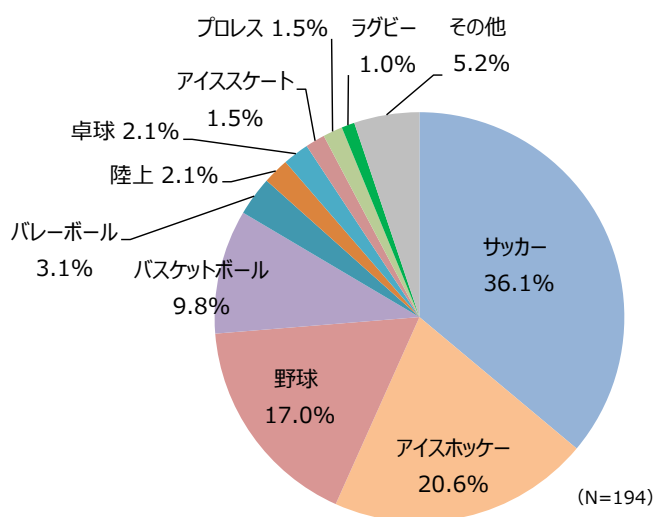


図 2-18 観戦しているスポーツ

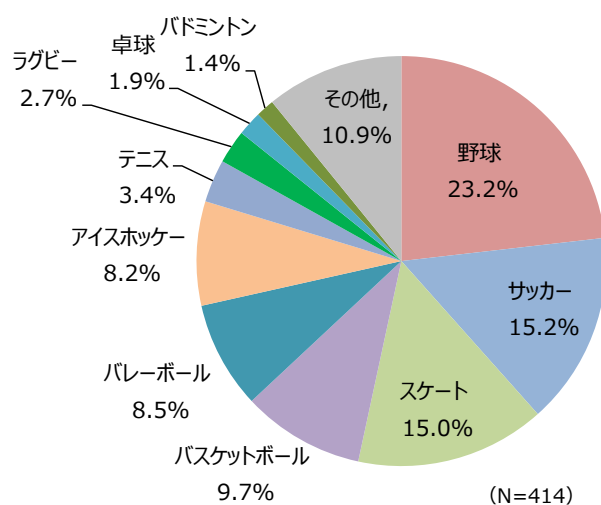


図 2-19 今後観戦したいスポーツ

資料：本計画策定に当たり市民を対象に実施したアンケート調査結果

(3) スポーツ関係団体の活動の現状

①競技団体・体育振興会の活動状況

本市には、八戸市体育協会加盟団体として、競技団体が35団体、地区ごとに組織している体育振興会が28団体あります。競技団体は、それぞれの競技力の向上、指導者の確保・育成、大会開催等を行っており、体育振興会は、地区運動会等の開催など、地区住民の運動機会創出のための活動を行っています。

各団体に行ったアンケート結果によると、活動の問題点として、競技団体では「大会に使う施設が少ない」、「練習に利用できる施設が少ない」といった施設に関するもののほか、「活動者が増えない」、「指導者が少ない」、「指導者の後継者がいない」といった人材不足に関するものが挙げられており、体育振興会でも、「地区人口の減少による参加者不足」、「若者の減少や高齢化による参加者不足」、「役員の担い手不足」といった人材不足に関するものが挙げられています。

そういった中で行政に望む支援として、競技団体では「練習や大会に使用する場所・設備の整備・充実」、「補助金の充実」、「トップレベルの試合や人材に触れる機会の創出」が挙げられており、体育振興会では、「補助金の充実」、「スタッフやボランティアの斡旋・育成支援」、「スポーツ活動に関する情報の提供」が挙げられています。

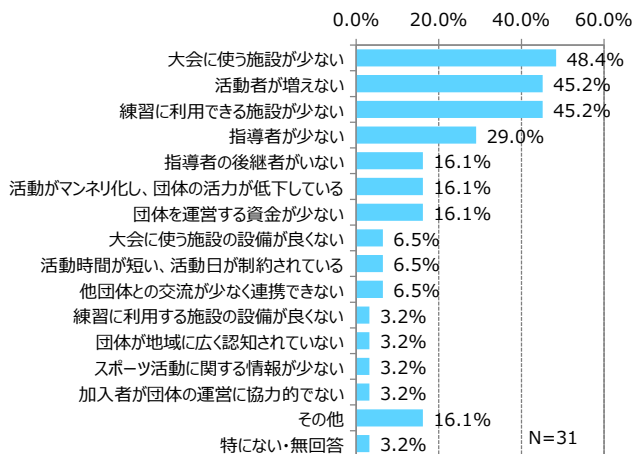


図 2-20 競技団体の活動の問題点

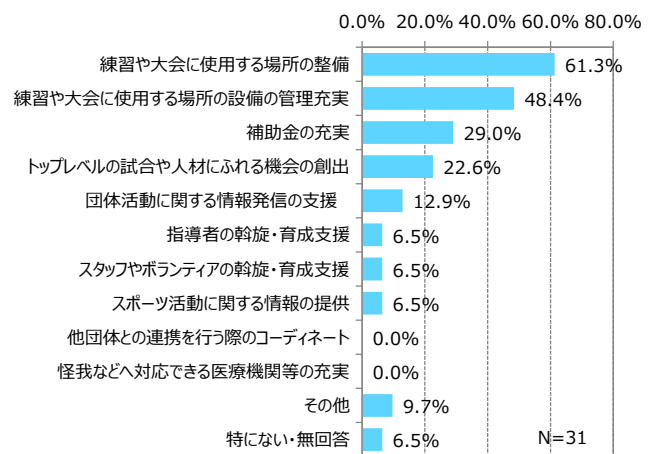


図 2-21 競技団体の行政に望む支援

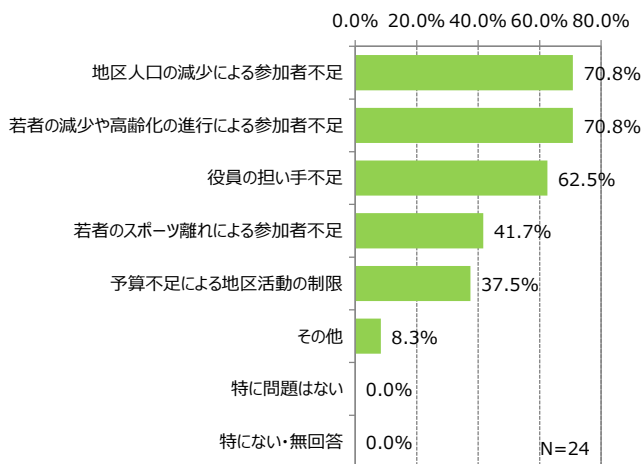


図 2-22 体育振興会の活動の問題点

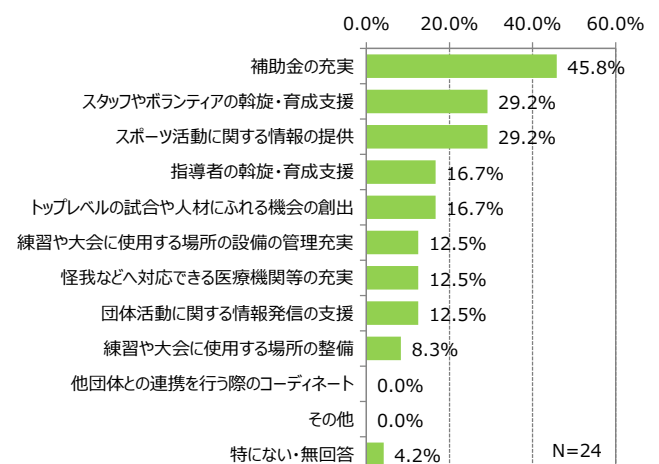


図 2-23 体育振興会の行政に望む支援

資料：本計画策定に当たり競技団体・体育振興会を対象に実施したアンケート調査結果

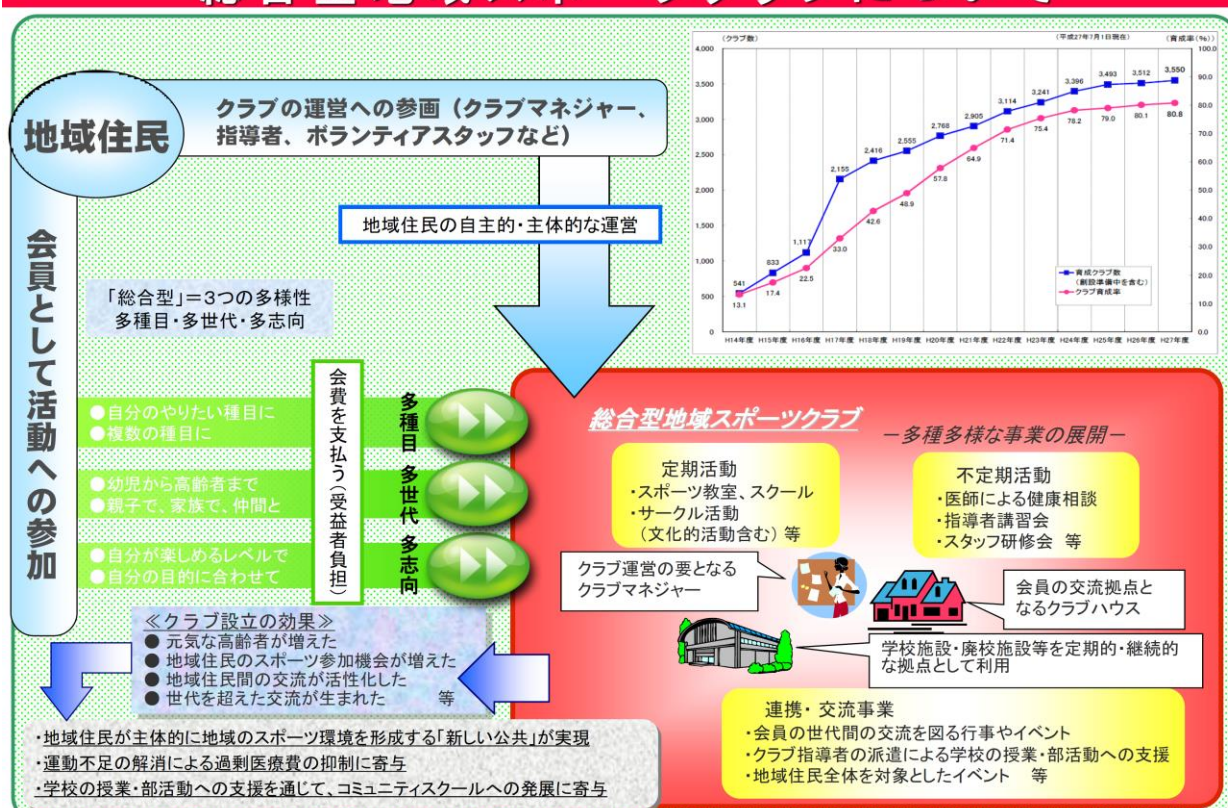
②総合型地域スポーツクラブの活動状況

本市には、総合型地域スポーツクラブが3団体存在しており、年齢や性別、障がいの有無や運動経験等を問われないスポーツ活動が行われています。

表 2-4 総合型地域スポーツクラブの概要

	概要	事業
ヴァンラーレ八戸 スポーツクラブ	・ヴァンラーレ八戸スポーツクラブは、単一種目のサッカー競技を平成19年4月からスタートし、同年にウォーキングやスイミング、水中ウォーキングやレクリエーション等を加え、平成20年4月から八戸市で初の総合型地域スポーツクラブとして活動を開始。	・サッカークラブ(U-18、U-15、U-12、U-10、U-8、U-6) ・ウォーキングクラブ(野外ウォーキング) ・スイミング&レクリエーションクラブ ・テニスクラブ(キッズ、一般) ・運営法人が八戸市から委託されている防犯協会の活動
ウインズスポーツクラブ	・ウインズスポーツクラブは、地域の幼児から高齢者までいろいろなレベルや興味にあわせて楽しむことができる総合型地域スポーツクラブを目指している。また、スポーツを通じて地域における「人づくり・まちづくり」に貢献していく。	・サッカークラブ(U-15、U-12、U-10、U-8、スクール1・2) ・コーディネーション ・フットサル ・ミニバスケット(U-12、U-8) ・チアリーディング(上級者、初級者)
総合型地域スポーツクラブ Hachinohe Club	・年齢・性別・障がい有無を問わず、全ての市民を対象とした各種スポーツの普及・振興事業及び介護予防事業を行っていく中で、青少年の健全育成、市民の健康増進及び地域コミュニティの活性化を図っていくことを目的とし、平成29年9月29日に設立された。	・学校部活動の受け皿としての総合型スポーツクラブ事業 ・アスリート育成事業 ・アダプティブスポーツに関する普及・啓発事業 ・各種運動教室への講師派遣事業 ・介護予防事業

総合型地域スポーツクラブについて






③プロスポーツチームの活動状況

本市には、現在、アイスホッケー、サッカー、バスケットボールと3つのプロスポーツチームがあり、1年を通じてスポーツを観戦する環境が整っています。


各チームでは、ホームゲーム開催時のイベントやグッズ販売のほか、小・中学生を対象としたスポーツ教室、小学生招待等、若年層へのスポーツ普及等の社会貢献活動に取り組んでおり、今後の事業展開としては、「ホームゲームの時の外の賑わいづくり」や「高齢者向けスクール事業を展開予定」としているチームもあります。

さらに、平成30年12月には、^{スポーツ}3×3（3人制バスケットボール）のプロリーグ参入を目指すチームの運営会社が設立され、市民のプロチームに対する盛り上がりが、ますます大きくなっています。

表 2-5 プロスポーツチームの概要

プロスポーツチーム	概要		主な実施事業
 東北フリーブレイズ	競技種目	アイスホッケー	○ホームゲーム時等各種イベント開催 ○チームグッズの販売 ○ファンクラブの運営 ○ジュニアスクールの運営 等 【選手主体の活動：グッズ制作、イベント開催・参加、社会貢献活動】
	参加リーグ	アジアリーグアイスホッケー	
	市内会場	新井田インドアリンク	
	運営法人	東北アイスホッケークラブ株式会社	
 ヴァンラーレ八戸FC	競技種目	サッカー	○ホームゲーム時等各種イベント開催 ○チームグッズの販売 ○ファンクラブの運営 ○アカデミーの運営 ○ホームタウン活動 （学校の授業や部活動、イベント・交通安全運動等に選手等を派遣） 等
	参加リーグ	J3リーグ（2019～）	
	市内会場	多賀多目的運動場天然芝球技場	
	運営法人	株式会社ヴァンラーレ八戸	
 青森ワッツ	競技種目	バスケットボール	○ホームゲーム時等各種イベント ○チームグッズの販売 ○ファンクラブの運営 ○バスケット・チアスクールの運営 ○イベント等に選手・スタッフ等を派遣 ○バスケットボール教室の開催 等
	参加リーグ	B2リーグ	
	市内会場	八戸市東体育館	
	運営法人	青森スポーツクリエイション株式会社	

（2019年から活動予定）

 八戸DIME	競技種目	3×3（3人制バスケットボール）	（想定） ○大会・イベントの企画・開催 ○チームグッズの販売 ○小学生向けバスケットボール教室の実施 ○少年自然の家を利用した合宿 ○バスケットボールスクール運営 等
	参加リーグ	3×3.EXE PREMIER（予定）	
	市内会場	－	
	運営法人	株式会社八戸DIME	

資料：本計画策定に当たり市内プロスポーツチームを対象に実施したアンケート調査結果

表 2-6 市内プロスポーツチームの参加リーグ開催期間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東北フリーブレイズ												
ヴァンラーレ八戸FC												
青森ワッツ												
八戸DIME（予定）												

地域一体となってプロスポーツチームを応援する「八戸スポーツ振興協議会」

本市では、本市又は本市を含む地域を拠点として活動するスポーツチームを応援し、支援することにより、地域スポーツの振興と地域経済活性化等を推進することを目的として、平成21年10月に「八戸スポーツ振興協議会」が発足しており、主に、広告宣伝事業、イベント支援事業、シャトルバス運行事業によりチームの活動を側面から支援しています。

地域を上げて応援するため、市をはじめとして、産業経済団体・スポーツ関係団体・報道関係団体・プロスポーツチームと幅広い分野で構成して活動しています。

発足	平成21年10月 5 日
目的	当市及び当市を含む地域を拠点とし活動するスポーツチームを応援し、支援することにより、地域スポーツの振興、地域経済の活性化等の推進を図る。
支援対象チーム	【アイスホッケー】 東北フリーブレイズ（発足当初～） 【サッカー】 ヴァンラーレ八戸FC（平成22年度～） 【バスケットボール】 青森ワッツ（平成26年度～）
会員所属 （会員：23名）	①八戸市 （市長＝会長） ②産業経済団体（8団体） ： 1) 八戸商工会議所、2) 南郷商工会、3) 公益社団法人八戸青年会議所、 4) 公益社団法人八戸観光コンベンション協会、5) 八戸中心商店街連絡協議会、 6) 八戸商店街連盟、7) 八戸国際交流協会、8) 八戸市旅館ホテル協同組合 ③スポーツ関係団体（7団体） ： 1) 八戸市体育協会、2) 青森県スケート連盟、3) 青森県アイスホッケー連盟、 4) 青森県素人アイスホッケー協会、 5) 青森県チビッコアイスホッケークラブチーム連絡協議会、 6) NPO法人八戸市サッカー協会、7) 八戸市バスケットボール協会 ④報道関係団体（4団体） ： 1) 株式会社東奥日報社、2) 株式会社デーリー東北新聞社、 3) 株式会社八戸テレビ放送、4) 株式会社ビーエフエム ⑤支援対象チーム（3団体） ： 1) 東北アイスホッケークラブ株式会社（東北フリーブレイズ運営法人）、 2) 株式会社ヴァンラーレ八戸（ヴァンラーレ八戸FC運営法人）、 3) 青森スポーツクリエイション株式会社（青森ワッツ運営法人）
主な事業内容	①広告宣伝事業 ：チームの知名度向上を図る。 ⇒広告掲載、応援フラッグの掲出 等 ②イベント支援事業 ：チームと市民との交流を図る。 ⇒チームイベント開催時の運営等協力、チーム合同イベントの開催 等 ③シャトルバス運行事業 ：観戦客の利便性向上を図る。 ⇒土・日・祝日のホーム戦に合わせたシャトルバス運行

《主な取組内容》

バナーフラッグ掲出（中心街等）	情報発信ブース	チーム合同イベント
		

2-2 スポーツ施設の現状

(1) 八戸市の位置・立地特性

本市は、青森県の南東部にある三八地域の中心となるまちです。北はおいらせ町と五戸町、西は南部町、南は階上町と岩手県の軽米町と接しており、東は太平洋に面しています。

広域幹線道路として、市を縦断するように高速自動車道である八戸自動車道が、沿岸部を国道45号が走っています。また、市中心部から岩手県久慈市までを八戸久慈自動車道が走っています。

鉄道は、東日本旅客鉄道(株)と青い森鉄道(株)の2社が運行しており、東日本旅客鉄道(株)では東京駅から新青森駅を結ぶ東北新幹線と八戸駅から久慈駅(久慈市)を結ぶ八戸線が、青い森鉄道(株)では青森駅から目時駅(三戸町)を結ぶ青い森鉄道線が運行しています。

北海道から東京までを繋ぐ東北・北海道新幹線や三沢空港(三沢市)まで短時間で移動できるなど、市・県内外を繋ぐ交通体系が整っており、主要都市との交通利便性の高い地域です。

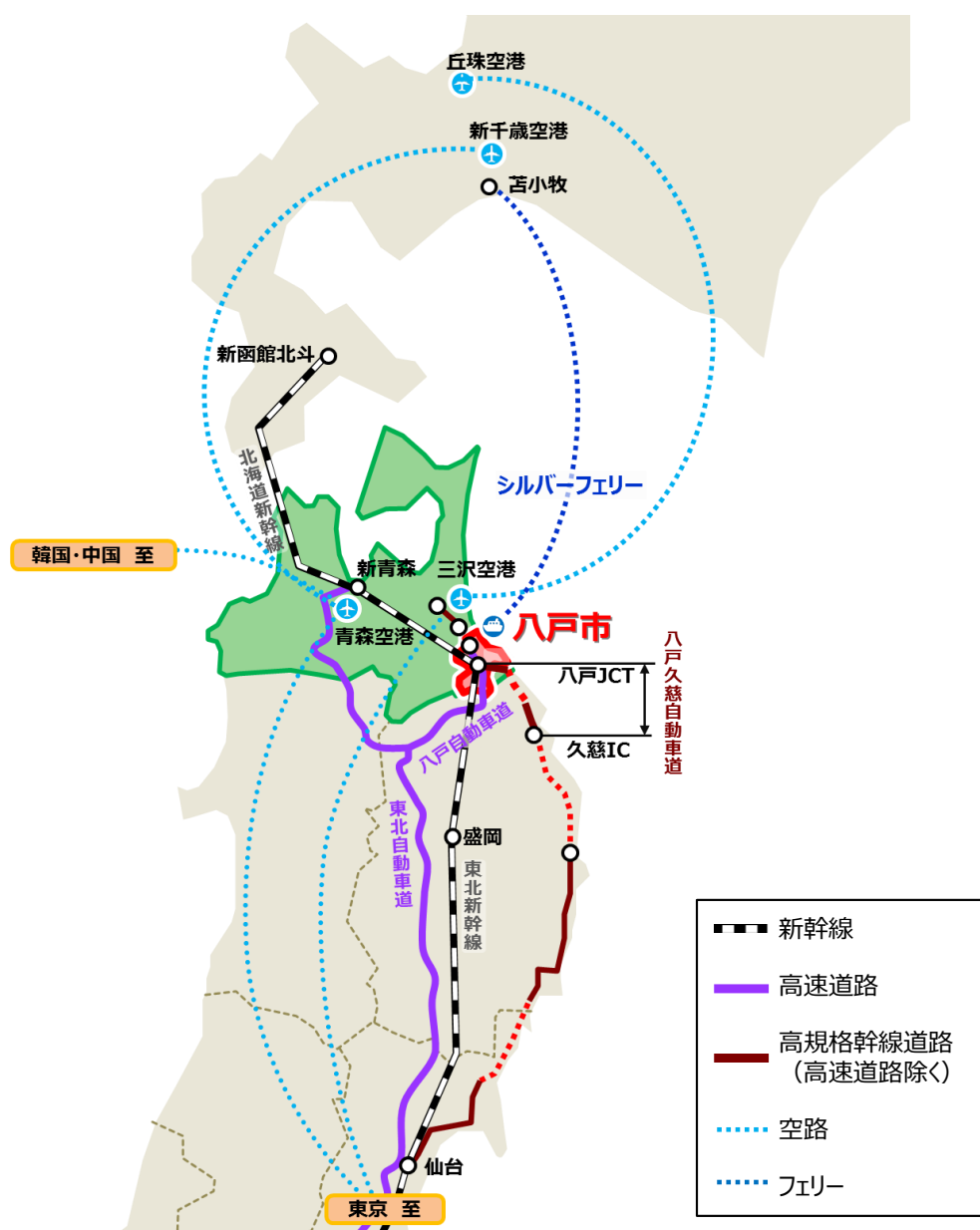


図 2-24 八戸市から主要都市へのアクセス性

(2) 新たなスポーツ施設整備の動向

新たなスポーツ施設整備の動向について、2019年秋頃には、国際大会へ対応した屋内スケート場である「長根屋内スケート場」が開業予定となっています。さらに、2020年春頃には、八戸駅西土地地区画整理事業で賑わい拠点とした「集」ゾーンに「フラットアリーナ」が開業予定となっています。

「長根屋内スケート場」は、長野市、北海道帯広市のリンクに続き、国際大会が開催できる国内3番目の屋内スピードスケート施設で、3,000人以上の収容が可能となっており、中心街に近い立地特性を活かし、誰もが日常的に利用できるラウンジや、八戸の観光やまちの情報を発信する交流サロン、暖かい環境で観覧できる観覧ロビーなどを設け、賑わいを創出することにより、スポーツを中心とした交流拠点として計画しています。

「フラットアリーナ」は、通年型のアイスリンクで、氷を張ったまま断熱フロアを敷くことで、別の競技やイベントが行える国内初の施設であり、開業後は、プロスポーツの興行やイベント以外の時間は市が施設を借り受け、利用者に貸し出しする予定です。

なお、その事業手法は、本市が施設整備に係る市有地を貸し出し、民間企業が建設・運営を行う「新しい官民連携」のモデルとなるものです。

このように、新たなスポーツ施設が整備されることで、更なるスポーツ活動の場の創出、競技力の向上が期待されます。

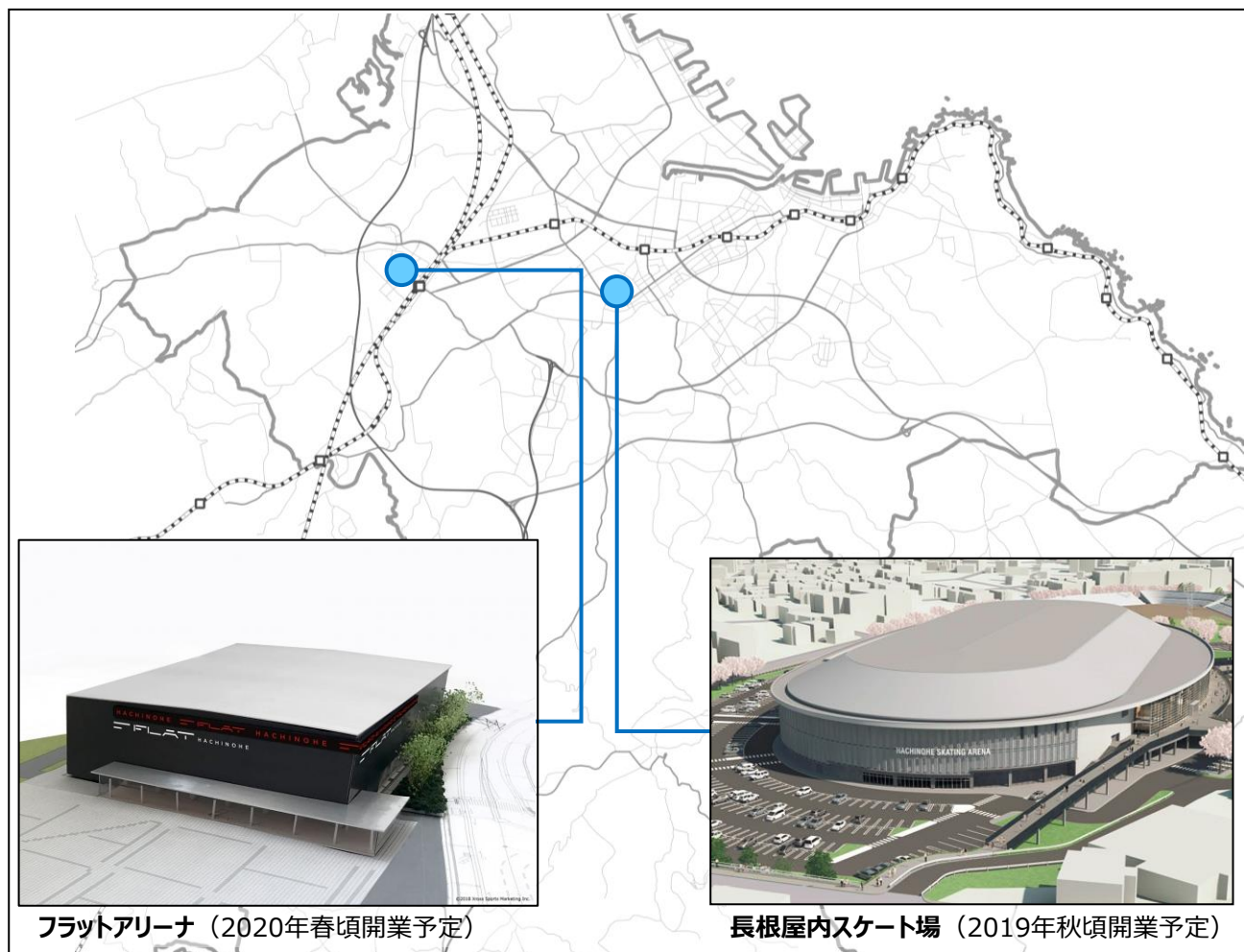


図 2-25 新施設の分布位置図

(3) スポーツ施設分布状況

本市の、主要なスポーツ施設は、人口分布状況（5 ページ図2-3）と照らし合わせると、人口密集地に立地しており、スポーツを身近に楽しめる環境にあるといえます。

また、「氷都八戸」の名に示されるとおり、複数のスケートリンクが設置されています。

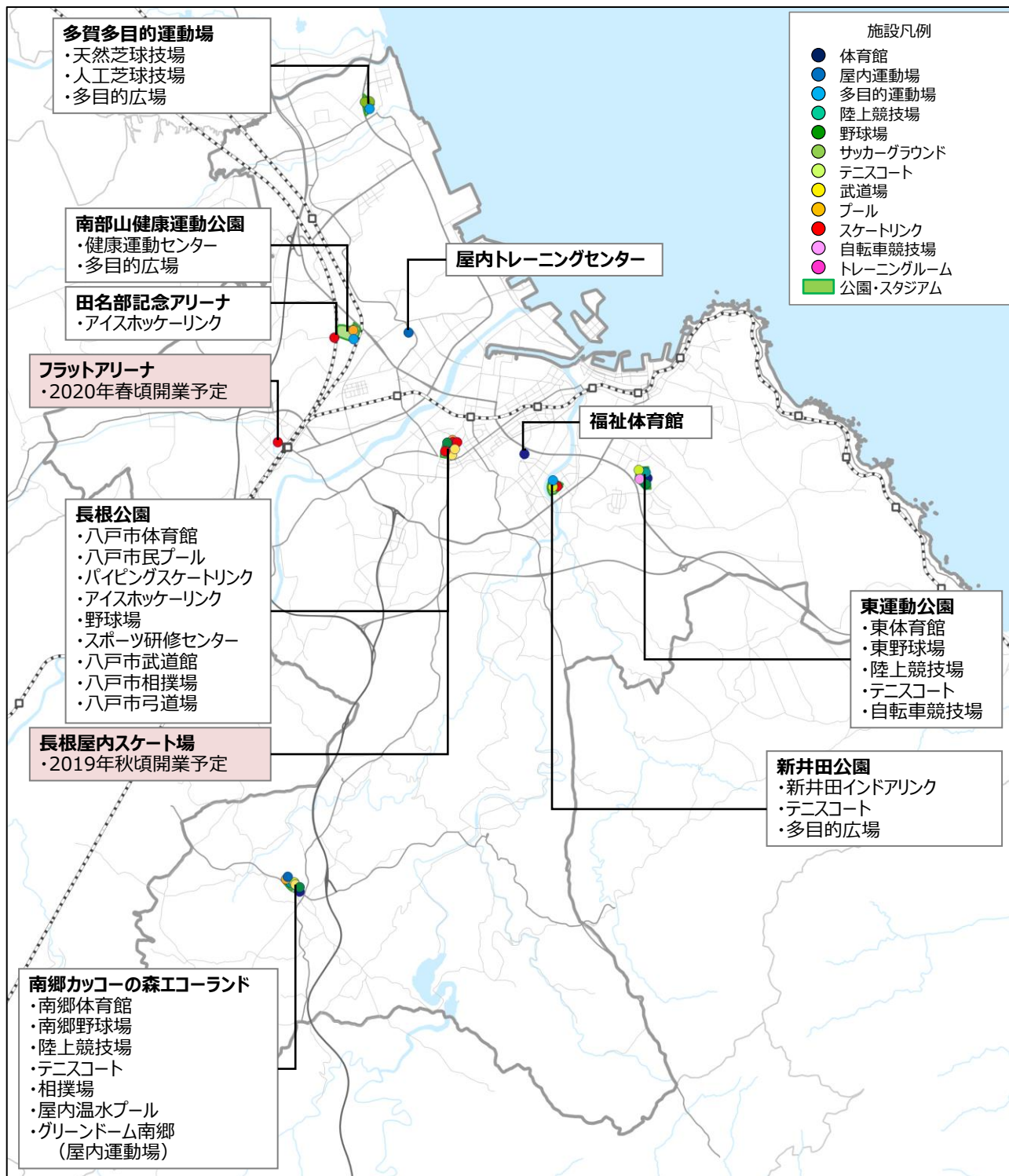


図 2-26 スポーツ施設分布状況

表 2-7 市内スポーツ施設の建設状況

No	集合施設名	施設名称	建設年度	施設機能	競技場等の大きさ
1	長根公園	八戸市体育館 (長根体育館)	S38.12	アリーナ、卓球室、観客席等	アリーナ(1,584㎡)、卓球室(501㎡)
2		八戸市体育館 トレーニング室	S38.12	トレーニング室等	トレーニング室(717㎡)
3		八戸市民プール (長根公園水泳プール)	S47.7	プール(野外)等	50mプール12レーン、児童・幼児用プール
4		長根公園パイピング スケートリンク	S44.12	スピードスケートリンク(野外)等	スケートリンク(1周400m)
5		長根公園アイスホッケー リンク	S51.10	アイスホッケーリンク(野外)、夜間照明等	スケートリンク(1,649㎡)
6		長根公園野球場	S27	野球場、観客席(スタンド)、夜間照明等	野球場1面(両翼91m、センター120m)
7		八戸市武道館	S56.3	柔道場、剣道場、レスリング場等	柔道場(182畳)、剣道場(459㎡)、レスリング場(2面)
8		八戸市相撲場	S56.10	競技場(野外)、練習場、観客席等	屋根付き土俵(1,515㎡)、練習場(165㎡)
9		八戸市弓道場	S52.3	射場、的場等	射場(5人立)
10		長根屋内スケート場	2019年 秋頃	スケートリンク、多目的コート、観客席等	—
11	新井田公園	新井田インドアリンク	S59.5	アイスホッケーリンク、観客席等	スケートリンク(1,745㎡)
12		新井田公園テニスコート	S63	テニスコート、観客席等	クレイコート(6面)
13		新井田公園多目的広場	S63	多目的広場	土グラウンド(16,868㎡)
14	東運動公園	東体育館	S62.6	アリーナ、体育室、トレーニング室、観客席等	アリーナ(1,638㎡)、体育室(卓球8台、バドミントン2面)
15		東体育館 トレーニング室	S62.6	トレーニング室等	トレーニング室(204㎡)
16		東野球場	S51.8	野球場、観客席(スタンド)、夜間照明等	野球場1面(両翼93m、センター120m)
17		東運動公園陸上競技場	S58.9	陸上トラック、観客席(スタンド・芝生)等	陸上400mトラック8レーン
18		東運動公園テニスコート	S59.10	テニスコート、夜間照明	砂入り人工芝(10面)
19		東運動公園自転車 競技場	H5.4	自転車走路	走路(周長333.1/3m)

表 2-7 市内スポーツ施設の建設状況（続き）

No	集合施設名	施設名称	建設年度	施設機能	競技場等の大きさ
20	南部山健康運動公園	南部山健康運動センター体育館	H4.9	アリーナ等	アリーナ(1,606㎡)
21		南部山健康運動センタートレーニング室	H4.9	トレーニング室等	トレーニング室(180㎡)
22		南部山健康運動センター温水プール	H4.9	プール等	25mプール7レーン、幼児用プール
23		南部山公園多目的広場	H4.9	多目的広場	芝生（15,666㎡）
24	多賀多目的運動場	天然芝球技場	H28.10	競技場、観客席（スタンド）等	サッカー場1面(7,140㎡、天然芝)
25		人工芝球技場	H28.10	競技場、観客席（スタンド）、夜間照明等	サッカー場1面(7,140㎡、人工芝)
26		多目的広場	H28.10	多目的広場	芝生（23,000㎡）
27	南郷カッコーの森エコランド	陸上競技場	H1.8	陸上トラック、芝生フィールド等	陸上400mトラック8レーン
28		テニスコート	H1.8	テニスコート、夜間照明	砂入り人工芝（3面）
29		相撲場	H1.8	競技場（野外）	屋根付き土俵(827㎡)
30		南郷屋内温水プール	H7.7	プール等	25mプール6レーン、児童・幼児用プール、スライダープール
31		グリーンドーム南郷	H9	競技場等	土グラウンド（4,039㎡）
32		南郷体育館	S55.7	アリーナ、トレーニング室、観客席等	アリーナ(944㎡)、トレーニング室(144㎡)
33		南郷体育館トレーニング室	S55.7	トレーニング室等	トレーニング室(144㎡)
34		南郷野球場	S54	野球場、夜間照明等	野球場1面(両翼92m、センター115m)
35	－	八戸市屋内トレーニングセンター	H1.9	主練習場、投球練習場、トレーニング室等	練習場(3,300㎡、土グラウンド)、トレーニング室(294㎡)
36	－	八戸市福祉体育館	S53	競技場等	アリーナ
37	－	田名部記念アリーナ【民間】	－	スケートリンク等	スケートリンク(1,800㎡)
38	－	フラットアリーナ【民間】	2020年春頃	スケートリンク、アリーナ、観客席	建築面積：約5,150㎡

表 2-8 スポーツ施設の分類別一覧表

施設分類	施設名称
体育館	八戸市体育館（長根体育館） 東体育館 南部山健康運動センター体育館 南郷体育館 八戸市福祉体育館
屋内運動場	グリーンドーム南郷 八戸市屋内トレーニングセンター
多目的運動場	新井田公園多目的広場 南部山公園多目的広場 多賀多目的運動場多目的広場
陸上競技場	東運動公園陸上競技場 南郷陸上競技場
野球場	長根公園野球場 東野球場 南郷野球場
サッカーグラウンド	多賀多目的運動場天然芝球技場 多賀多目的運動場人工芝球技場
テニスコート	新井田公園テニスコート 東運動公園テニスコート 南郷テニスコート
武道場	八戸市武道館 八戸市相撲場 八戸市弓道場 南郷相撲場
プール	八戸市市民プール（長根公園水泳プール） 南部山健康運動センター温水プール 南郷屋内温水プール
スケートリンク	長根公園パイピングスケートリンク 長根公園アイスホッケーリンク 長根屋内スケート場（2019年秋頃開業予定） 新井田インドアリンク 田名部記念アリーナ【民間】 フラットアリーナ（2020年春頃開業予定）【民間】
自転車競技場	東運動公園自転車競技場
トレーニングルーム	八戸市体育館トレーニング室 東体育館トレーニング室 屋内トレーニングセンタートレーニング室 南部山健康運動センタートレーニング室 南郷体育館トレーニング室

※上記施設以外にも民間のスポーツ施設がある。

(4) スポーツ施設の状況

本市が所管するスポーツ施設の耐用年数※は、鉄筋鉄骨コンクリート造（SRC造）である八戸市体育館や東体育館等と鉄筋コンクリート造（RC造）である八戸市武道館や南郷屋内運動場（グリーンドーム）等が47年間、鉄骨造（S造）である八戸市弓道場や八戸市福祉体育館等が34年間となっています。木造（W造）である南郷相撲場などは、耐用年数が22年間と他の施設に比べ短くなります。そうした中で、多くの施設が30年以上稼働している状況です。

また、大会・合宿誘致の観点では、既存のスポーツ施設は、国際大会や全国規模の大会の開催を意識したものではなく、それらに対応できるのは、新設する「長根屋内スケート場」となります。宿泊施設については、主にビジネスホテルの利用が想定され、アスリートのためのフードマネジメント、ヘルスケア等まで含めた対応は期待できません。

今後の大会・合宿等の誘致に当たっては、練習の合宿から大規模大会まで、施設に応じた誘致を検討するとともに、スポーツ施設だけでなく、宿泊施設等を含めたトータル的な受け入れ環境の整備が求められます。

※耐用年数は、財務省令「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」による

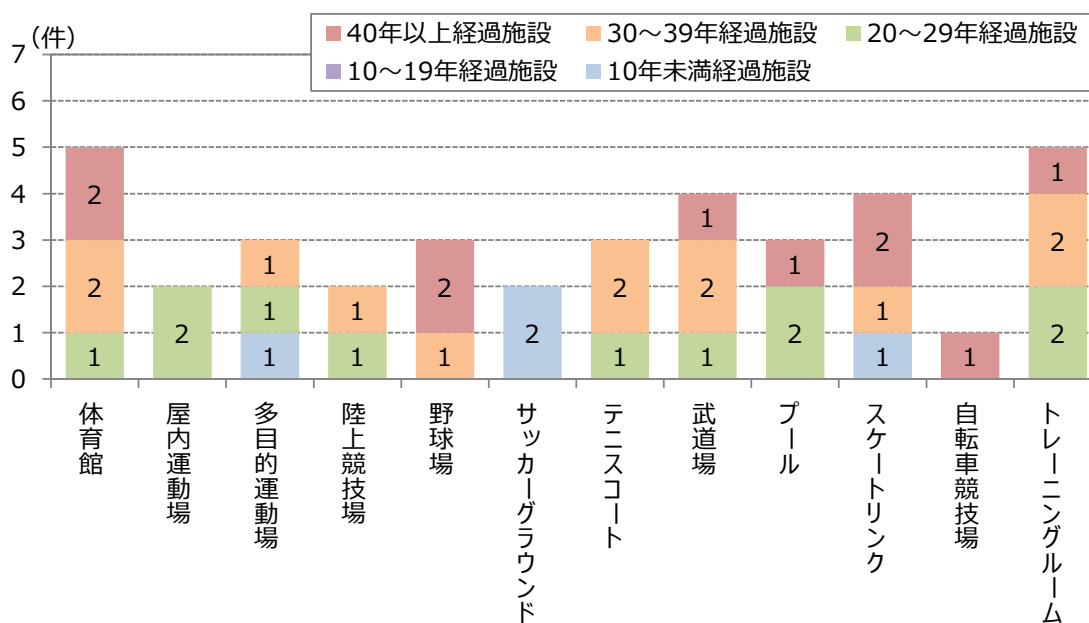


図 2-27 スポーツ施設の経過年数

表 2-9 八戸市が所管する施設の施設分類別耐用性

施設分類	施設名	建設年度	構造	耐用年数	経過年数	耐用期間
体育館	八戸市体育館（長根体育館）	S38.12	SRC造	47年	55年	×
	東体育館	S62.6	SRC造	47年	31年	○
	南部山健康運動センター体育館	H4.9	SRC造	47年	26年	○
	南郷体育館	S55.7	RC造	47年	38年	○
	八戸市福祉体育館	S53	S造	34年	40年	×
屋内運動場	グリーンドーム南郷	H9	RC造	47年	21年	○
	八戸市屋内トレーニングセンター	H1.9	RC造	47年	29年	○
多目的運動場	新井田公園多目的広場	S63	－	30年	30年	△
	南部山公園多目的広場	H4.9	－	30年	26年	○
	多賀多目的運動場多目的広場	H28.10	－	30年	2年	○
陸上競技場	東運動公園陸上競技場	S58.9	RC造	45年	42年	○
	南郷陸上競技場	H1.8	S造	30年	29年	○
野球場	長根公園野球場	S27	RC造	45年	66年	×
	東野球場	S51.8	RC造	45年	42年	○
	南郷野球場	S54	RC造	45年	39年	○
サッカーグラウンド	多賀多目的運動場天然芝球技場	H28.10	RC造	45年	2年	○
	多賀多目的運動場人工芝球技場	H28.10	－	30年	2年	○
テニスコート	新井田公園テニスコート	S63	S造	30年	30年	△
	東運動公園テニスコート	S59.10	S造	30年	4年	○
	南郷テニスコート	H1.8	－	30年	29年	○
武道場	八戸市武道館	S56.3	RC造	47年	37年	○
	八戸市相撲場	S56.10	S造	34年	37年	×
	八戸市弓道場	S52.3	S造	34年	41年	×
	南郷相撲場	H1.8	W造	22年	29年	×
プール	八戸市民プール（長根公園水泳プール）	S47.7	S造	30年	46年	×
	南部山健康運動センター温水プール	H4.9	RC造	30年	26年	○
	南郷屋内温水プール	H7.7	RC造	30年	23年	○
スケートリンク	長根公園パイピングスケートリンク	S44.12	S造	30年	49年	×
	長根公園アイスホッケーリンク	S51.10	S造	30年	42年	×
	長根屋内スケート場	－	RC造	38年	－	－
	新井田インドアリンク	S59.5	RC造	38年	34年	○
自転車競技場	東運動公園自転車競技場	H5.4	RC造	45年	25年	○
トレーニングルーム	長根トレーニング室	S38.12	SRC造	47年	55年	×
	東トレーニング室	S62.6	SRC造	47年	31年	○
	南部山健康運動センタートレーニング室	H4.9	RC造	47年	26年	○
	南郷トレーニング室	S55.7	RC造	47年	38年	○
	八戸市屋内トレーニングセンタートレーニング室	H1.9	RC造	47年	29年	○

※耐用年数は、財務省令「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」を参考とし、屋内型の施設は「体育館用の建物（SRC造・RC造47年、S造34年、W造22年）」、屋外型の施設は「競技場・運動場の建物（SRC造・RC造45年、S造・その他30年）」と想定。また、スケート場用施設は「スケート場用の建物（SRC造・RC造38年）」、プール施設は「水泳プール施設（30年）」と想定。

※経過年数は、建築年度から、現在（平成30年とする）までの期間を算出。改修年は未考慮。

表 2-10 八戸市が所管する施設の管理者一覧

施設名		管理者
長根公園	八戸市体育館（長根体育館）	エスプロモ株式会社
	八戸市体育館トレーニング室	
	八戸市民プール（長根公園水泳プール）	
	長根公園パイピングスケートリンク	
	長根公園アイスホッケーリンク	
	長根公園野球場	
	八戸市武道館	
	八戸市相撲場	
	八戸市弓道場	八戸弓道協会
新井田公園	新井田インドアリンク	エスプロモ株式会社
	新井田公園テニスコート	
	新井田公園多目的広場	
東運動公園	東体育館	エスプロモ株式会社
	東体育館トレーニング室	
	東野球場	
	東運動公園陸上競技場	
	東運動公園テニスコート	
	東運動公園自転車競技場	八戸自転車競技協会
南部山健康運動公園	南部山健康運動センター体育館	エスプロモ株式会社
	南部山健康運動センタートレーニング室	
	南部山健康運動センター温水プール	
	南部山公園多目的広場	
多賀多目的運動場	天然芝球技場	八戸スポーツ・地域振興グループ
	人工芝球技場	
	多目的広場	
南郷カッコーの森エコーランド	陸上競技場	エスプロモ株式会社
	テニスコート	
	相撲場	
	南郷屋内温水プール	
	グリーンドーム南郷	
	南郷体育館	
	南郷体育館トレーニング室	
	南郷野球場	
－	八戸市屋内トレーニングセンター	三八五ふれあいネット
－	八戸市福祉体育館	

（５）市所管スポーツ施設の利用実績

本市が所管するスポーツ施設の利用者数は、人口の減少傾向の中にあっても、全体的に横ばいから増加傾向にあることから、スポーツ施設の需要が高いことが伺えます。

また、10ページ図 2-15 の市民ニーズ・意識調査での「実施しているスポーツ」としてスケートと答えた人が極端に少ないにもかかわらず、下表 2-11 のスケートリンクの利用者は施設種別単位では3番目に多いことから、スケートが市民にとってスポーツとしてではなく、レジャーなどのより気軽に楽しめる身近なものとして認識されている、「氷都八戸」ならではの地域特性が、ここでも伺えます。

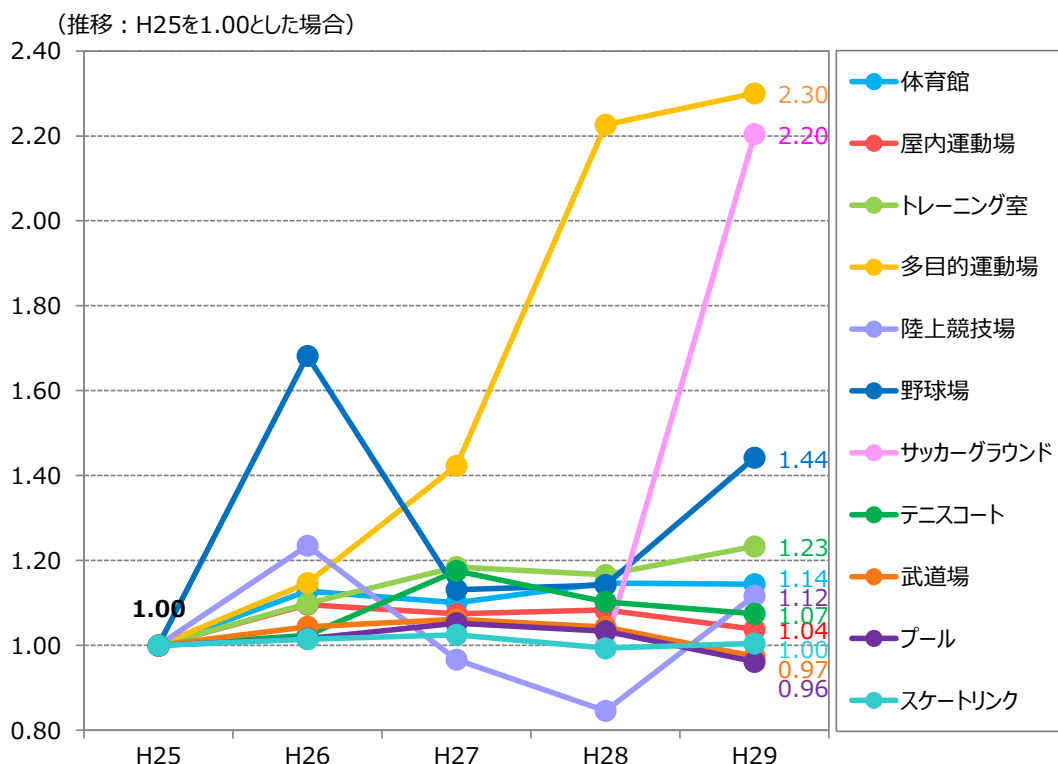


図 2-28 八戸市所管スポーツ施設類別の利用者数の推移

※サッカーグラウンドの推移はH27以前の実績値がないため、H28を1.00とした場合で算出

表 2-11 八戸市所管スポーツ施設の施設分類別利用者数の推移

	利用者数（人）				
	H25	H26	H27	H28	H29
体育館	239,700	270,413	260,797	274,840	274,259
屋内運動場	58,586	64,139	63,783	63,483	61,097
トレーニング室	212,902	233,825	252,223	248,266	262,534
多目的運動場	13,682	15,692	19,472	30,464	31,476
陸上競技場	51,424	63,501	49,698	43,493	57,450
野球場	37,067	62,357	41,938	42,338	53,449
サッカーグラウンド				49,132	108,301
テニスコート	43,346	44,374	50,963	47,788	46,585
武道場	94,034	98,164	99,779	98,098	91,640
プール	69,562	70,675	73,205	71,888	66,891
スケートリンク	137,052	139,054	140,480	136,176	137,677

資料：八戸市

①体育館

表 2-12 【体育館】の利用実績の推移

	利用者数（人）				
	H25	H26	H27	H28	H29
八戸市体育館 （長根体育館）	91,479	97,862	76,563	83,052	89,863
東体育館	79,283	102,518	110,769	116,901	113,027
南部山健康運動センター 体育館	33,200	30,378	31,124	33,098	32,473
南郷体育館	12,796	12,541	15,430	15,355	15,563
八戸市福祉体育館	22,942	27,114	26,911	26,434	23,333
合計	239,700	270,413	260,797	274,840	274,259

資料：八戸市

②屋内運動場

表 2-13 【屋内運動場】の利用実績の推移

	利用者数（人）				
	H25	H26	H27	H28	H29
グリーンドーム南郷	21,459	25,025	25,947	24,253	23,403
屋内トレーニングセンター	37,127	39,114	37,836	39,230	37,694
合計	58,586	64,139	63,783	63,483	61,097

資料：八戸市

③トレーニング室

表 2-14 【トレーニング室】の利用実績の推移

	利用者数（人）				
	H25	H26	H27	H28	H29
八戸市体育館 トレーニング室	85,546	98,062	107,037	100,712	109,029
東体育館 トレーニング室	47,819	49,519	51,166	52,110	52,033
南部山健康運動センター トレーニング室	30,310	31,212	33,758	33,738	36,859
南郷体育館 トレーニング室	4,075	5,990	5,431	7,150	8,347
屋内トレーニングセンター トレーニング室	45,152	49,042	54,831	54,556	56,266
合計	212,902	233,825	252,223	248,266	262,534

資料：八戸市

④多目的運動場

表 2 - 1 5 【多目的運動場】の利用実績の推移

	利用者数（人）				
	H25	H26	H27	H28	H29
新井田公園多目的広場	8,790	9,957	12,187	17,519	12,428
南部山公園多目的広場	4,892	5,735	7,285	8,945	5,408
多賀多目的運動場 多目的広場				4,000	13,640
合計	13,682	15,692	19,472	30,464	31,476

資料：八戸市

⑤陸上競技場

表 2 - 1 6 【陸上競技場】の利用実績の推移

	利用者数（人）				
	H25	H26	H27	H28	H29
東運動公園陸上競技場	44,922	54,762	41,701	33,290	49,450
南郷陸上競技場	6,502	8,739	7,997	10,203	8,000
合計	51,424	63,501	49,698	43,493	57,450

資料：八戸市

⑥野球場

表 2 - 1 7 【野球場】の利用実績の推移

	利用者数（人）				
	H25	H26	H27	H28	H29
長根公園野球場	16,858	29,024	19,051	20,660	20,910
東野球場	16,998	26,900	16,442	15,356	26,532
南郷野球場	3,211	6,433	6,445	6,322	6,007
合計	37,067	62,357	41,938	42,338	53,449

資料：八戸市

⑦サッカーグラウンド

表 2-18 【サッカーグラウンド】の利用実績の推移

	利用者数（人）				
	H25	H26	H27	H28	H29
多賀多目的運動場 天然芝球技場				29,530	43,171
多賀多目的運動場 人工芝球技場				19,602	65,130
合計				49,132	108,301

資料：八戸市

⑧テニスコート

表 2-19 【テニスコート】の利用実績の推移

	利用者数（人）				
	H25	H26	H27	H28	H29
新井田公園テニスコート	7,745	9,682	10,811	8,930	7,679
東運動公園テニスコート	31,814	29,833	35,282	33,981	33,745
南郷テニスコート	3,787	4,859	4,870	4,877	5,161
合計	43,346	44,374	50,963	47,788	46,585

資料：八戸市

⑨武道場

表 2-20 【武道場】の利用実績の推移

	利用者数（人）				
	H25	H26	H27	H28	H29
八戸市武道館	78,268	82,700	82,221	81,116	75,069
八戸市相撲場	320	385	249	430	754
八戸市弓道場	15,446	15,079	17,309	16,552	15,817
南郷相撲場	—	—	—	—	—
合計	94,034	98,164	99,779	98,098	91,640

資料：八戸市

⑩プール

表 2-21 【プール】の利用実績の推移

	利用者数（人）				
	H25	H26	H27	H28	H29
八戸市民プール （長根公園水泳プール）	11,915	9,934	10,568	10,478	6,577
南部山健康運動センター 温水プール	31,342	33,410	32,792	32,350	32,446
南郷屋内温水プール	26,305	27,331	29,845	29,060	27,868
合計	69,562	70,675	73,205	71,888	66,891

資料：八戸市

⑪スケートリンク

表 2-22 【スケートリンク】の利用実績の推移

	利用者数（人）				
	H25	H26	H27	H28	H29
長根公園 パイピングスケートリンク （長根公園アイスホッケー リンク含む）	66,866	69,708	74,533	68,910	70,771
新井田インドアリンク	70,186	69,346	65,947	67,266	66,906
合計	137,052	139,054	140,480	136,176	137,677

資料：八戸市

(6) 今後の施設整備の基本方針

本市では、築50年以上が経過している八戸市体育館について、平成27年12月に耐震診断を受け、「震度6以上の地震に対して、倒壊又は崩壊の可能性がある」との結果が出たことから、今後の八戸市体育館の方向性を検討する必要性が生じました。

また、平成26年8月には、「公共施設マネジメントの推進に係る基本方針」を策定しており、市内の公共施設の長期的な視点による更新、統廃合及び長寿命化を計画的に進めることも必要な状況にありました。

これらを受け、平成29年1月に「八戸市体育施設整備検討委員会」を発足し、今後のスポーツ施設のあり方、並びに整備改修に係る基本的な方向性についての議論を重ね、平成31年2月には、同委員会から市に「八戸市体育施設整備の基本方針に関する意見書」が提出されました。

同意見書では、八戸市体育館の建て替えを最優先で取り組むべき課題とし、その他の施設は、長寿命化、現状の総量維持・適正化、施設の機能向上を図るべきとされており、これに沿って「八戸市体育施設整備に関する基本方針」を策定しました。

八戸市体育施設整備に関する基本方針

基本方針① 八戸市体育館の建て替えに向けた基本構想を早期に策定する

基本方針② 市民が安全に利用できるよう予防保全の実施と長寿命化を図る

基本方針③ 既存施設の有効活用・統廃合による総量の維持・適正化を図る

基本方針④ 市民のニーズや時代に適合するような施設の質の向上を図る

基本方針⑤ スポーツによるまちづくりの視点による施設整備の推進を図る

基本方針⑥ 長根公園内の体育施設の移転を見直して公園の整備を行う

図 2-29 八戸市体育施設整備に関する基本方針概要

2-3 スポーツ大会、イベントの開催状況

(1) スポーツ大会、イベント開催・入り込み状況（観客数・参加者数の推移）

本市で毎年開催されている大会やイベントの中で、特に参加者の多いイベントは、市民の多くが参加する「八戸市総合体育大会」と、全国のマラソンランナーが参加する「八戸うみねこマラソン全国大会」です。

「八戸市総合体育大会」の参加者数は約2,500人、「八戸うみねこマラソン全国大会」の参加者数は約5,000人～6,500人で推移しています。

また、本市を拠点とするプロスポーツチームのホーム戦が開催され、多くの人が観戦し、各チームにおける本市でのホームゲーム観戦者数は、年間数万人規模であり、どのチームにおいても1試合当たりの観戦者数が1試合平均で1,000～1,500人以上となっており、ヴァンラーレ八戸FCでは、2017年シーズンから平均2,000人を超えています。

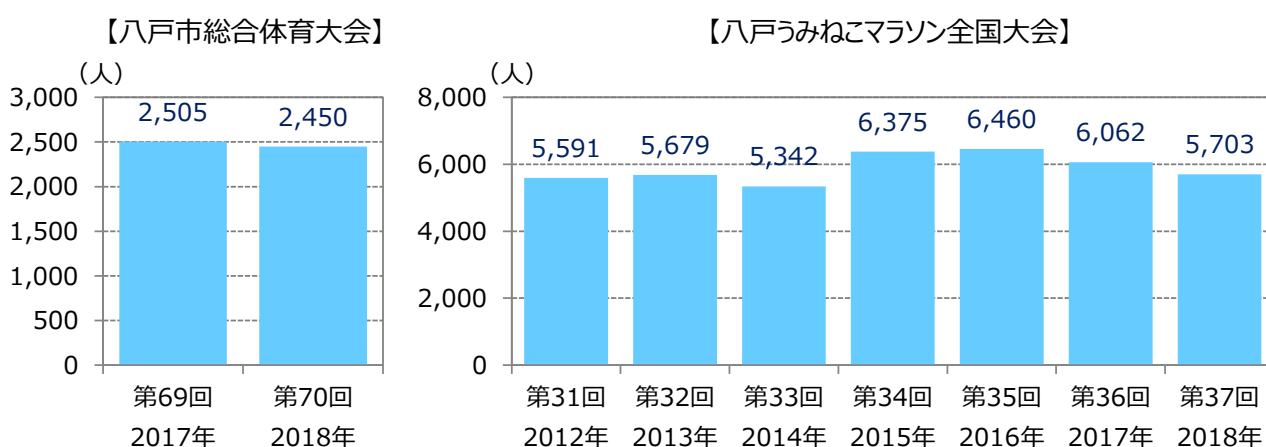


図 2-30 大会・イベントの参加者数推移

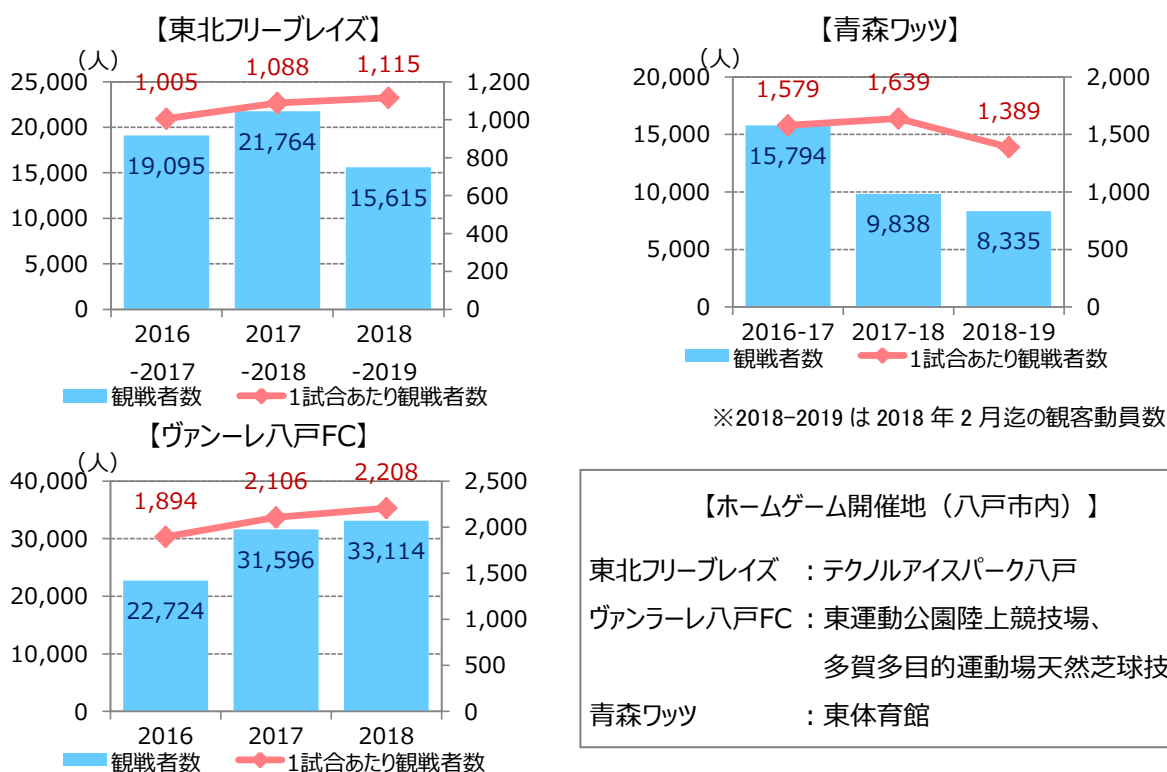


図 2-31 プロスポーツのホームゲーム観戦者数推移

※八戸市内のホームゲーム観戦者数のみを抜粋

【ホームゲーム開催地（八戸市内）】

東北フリーブレイズ : テクノアイスパーク八戸

ヴァンラーレ八戸FC : 東運動公園陸上競技場、

多賀多目的運動場天然芝球技場

青森ワッツ : 東体育館

(2) プロスポーツ観戦者のニーズ・意向調査

プロスポーツの観戦実態・ニーズを把握するため、本市を拠点とするプロスポーツチームの観戦客を対象に、アンケート調査を実施しました。

市民ニーズ・意識調査結果で、「市内で実際に会場に行って観戦している」と答えた人が全体で約2割にとどまった一方で、観戦している人は、各チームにおいてもリピーター率が高く、特にアイスホッケーの東北フリーブレイズでは、月1回以上観戦に来ている人が全ての年代で4割以上を占めています。

観戦に係る費用は、各チームにおいても、チケット代と飲食費が多くを占めていますが、いずれも約3,000円未満若しくは費用をかけていないと答えた人が大半を占めています。

試合観戦当日の満足度は全体的に高い傾向にありますが、東北フリーブレイズでは、トイレや観客席等の設備、ヴァンラーレ八戸FCと青森ワッツはアクセス性についての満足度が低くなっています。

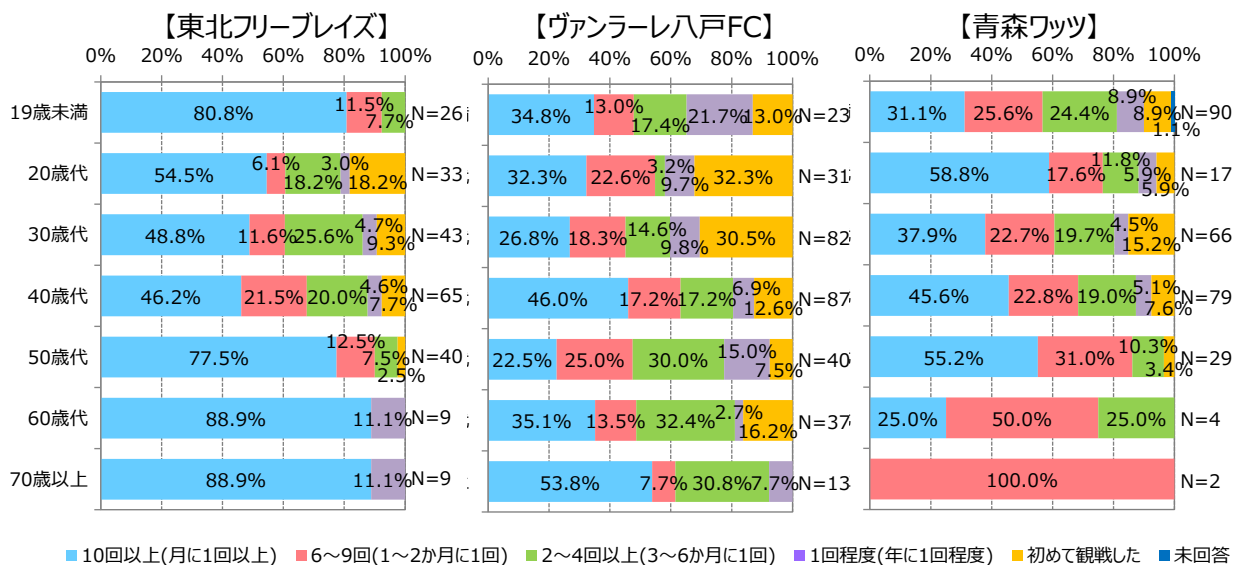


図 2-3 2 観戦種目別の年代別観戦頻度 (リピーター率)

資料：本計画策定に当たり市内のプロスポーツチームのホーム戦観戦者を対象に実施したアンケート調査結果
※調査を実施した平成30年から過去1年間のうちに同プロスポーツを観戦した回数

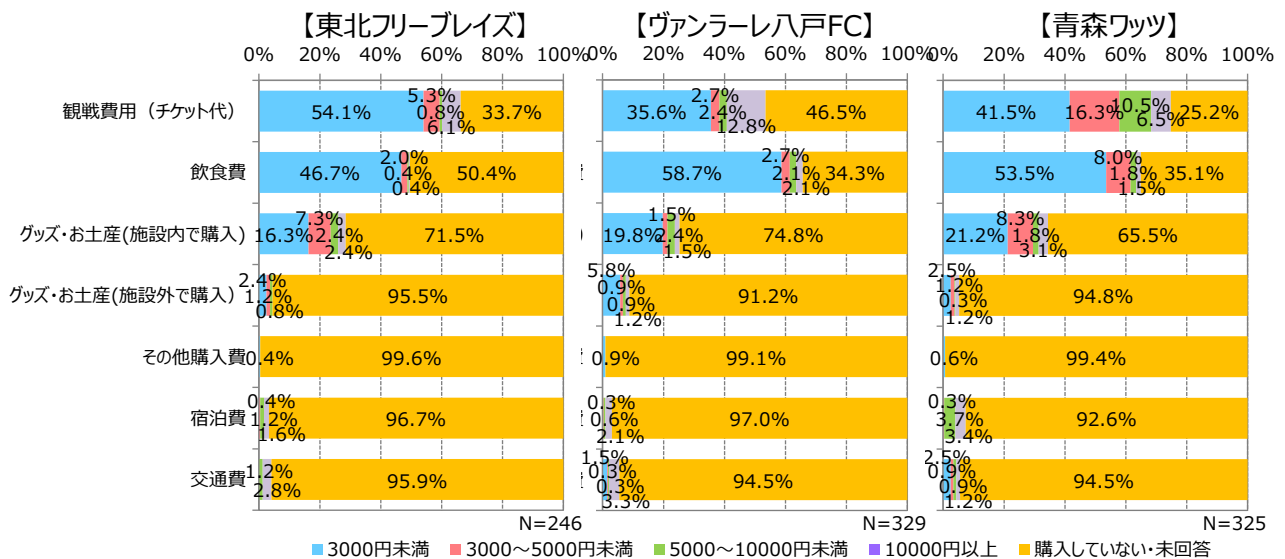


図 2-3 3 観戦種目別の発生費用

資料：本計画策定に当たり市内のプロスポーツチームのホーム戦観戦者を対象に実施したアンケート調査結果

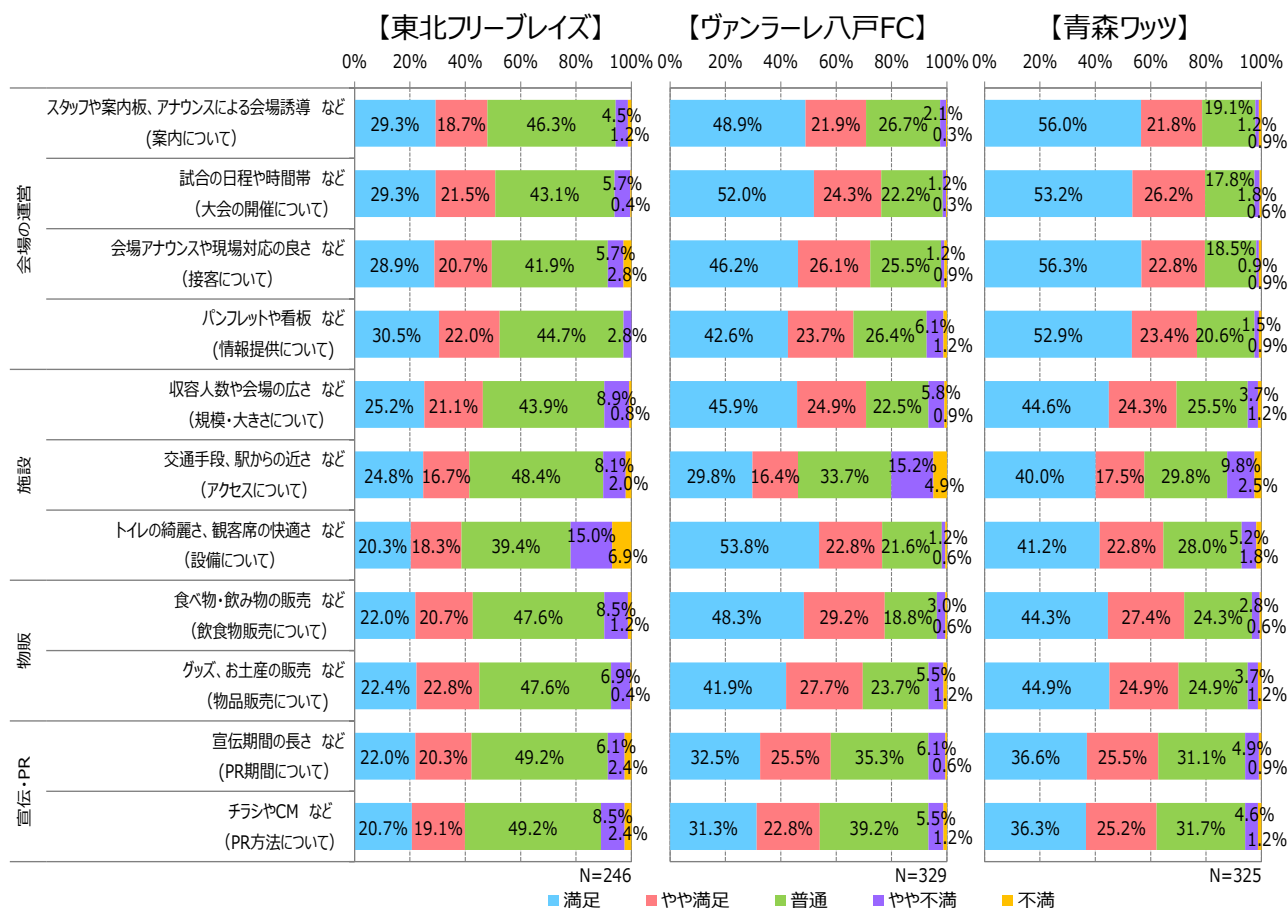


図 2-34 観戦種目別の満足度評価

資料：本計画策定に当たり市内のプロスポーツチームのホーム戦観戦者を対象に実施したアンケート調査結果

(3) 大規模大会・興行の開催

本市では、今後、2020年の開催で全国最多の13回となる第75回国民体育大会冬季大会、2021年のISU世界ジュニアスピードスケート選手権大会、2025年の第80回国民スポーツ大会といった全国、世界規模の大会の開催を控えています。

表 2-2 3 大規模大会・興行の開催状況（2016年以降）

実施日・シーズン	大会・イベント名称	会場
2016.5	プリンスアイスワールド 2016 in HACHINOHE	新井田インドアリンク
2016.11	V・プレミアリーグ女子八戸大会	八戸市体育館
2017.12	第90回全日本学生氷上競技選手権大会（アイスホッケー競技）	新井田インドアリンク
2018.2	第85回全日本スピードスケート選手権大会	長根公園パイニングスケートリンク
2018.5	プリンスアイスワールド 2018 in HACHINOHE	新井田インドアリンク
2018.8	平成30年夏巡業 大相撲八戸場所	八戸市体育館
2019.1	第68回全国高等学校アイスホッケー競技選手権大会	新井田インドアリンク
2019.5	浅田真央サンクスツアー	新井田インドアリンク
2020.1	第75回国民体育大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会	長根屋内スケート場 ほか
2021.2	2021 ISU世界ジュニアスピードスケート選手権大会	長根屋内スケート場

2-4 現状からみた課題

ここまでの現状を整理し、更なるスポーツ振興と地域振興について、「する」・「みる」・「ささえる」それぞれの視点からみた課題をまとめました。

(1) スポーツを「する」視点

スポーツを「する」視点からみた主な現状

強み

- ・氷都八戸に示されるとおり、スケート競技が盛んで、世界水準の長根屋内スケート場、アイスリンクをメインとした多目的施設のフラットアリーナが整備されます。
- ・オリンピックメダリストを輩出した競技環境があります。
- ・種目の異なる複数のプロスポーツチームが活動しています。
- ・1年を通じて多様なスポーツをできる環境があります。

- ・市民ニーズ・意識調査の結果では、「普段の運動量が足りている」と答えた人の割合が、12.7%と低くなっています。
- また、市民の実施しているスポーツの種目が多種にわたっています。
- ・人口が減少している中でも、競技団体へのアンケート調査結果では、施設の利用者数は年々増加傾向にあり、競技団体では、活動上の問題点として施設不足を多く指摘しています。

スポーツを「する」視点からみた課題

課題(1) - 1: 運動不足解消のための運動機会の創出

- ・普段の運動量が足りていると認識している人が少なく、市民の運動不足による健康への影響が懸念されることから、年代等を問わずあらゆる市民がスポーツに親しみ、運動不足の解消、体力向上、健康維持にもつなげられる運動機会の創出が必要です。

課題(1) - 2: 運動機会提供のための活動場所の確保

- ・人口が減少している中でも、施設の利用者数は年々増加傾向にあり、競技団体からは施設不足が多く指摘されています。
- ・また、市民の実施しているスポーツの種目が多種にわたっており、施設利用の競合が懸念されます。
- ・一方で、「八戸市体育施設整に関する備基本方針」では、人口減少と利用者増加への対応として、既存施設の有効活用・統廃合による総量の維持・適正化を掲げていることから、施設の新設によらずこれらの問題を解消する必要があります。

課題(1) - 3: 競技力向上のための地域特性の更なる活用

- ・第6次八戸市総合計画でも、「地域特性を活かし、更なる競技力向上やスポーツ人口の拡大を図る」こととしています。
- ・長根屋内スケート場やフラットアリーナといった新しい施設、オリンピックメダリストを輩出した競技環境、プロスポーツチームなど、これら地域特性の活用の更なる推進が必要です。

(2) スポーツを「みる」視点

スポーツを「みる」視点からみた主な現状

強み

- ・国際大会の開催を見据えた長根屋内スケート場、プロの興行を見据えエンターテインメント性に特化したフラットアリーナが整備されます。
 - ・国内最多の冬季国体開催など、全国規模の大会を観戦する機会が多くあります。
 - ・種目の異なる複数のプロスポーツチームが活動しており、観客数が増加傾向にあります。
 - ・プロスポーツチームのほか、カレッジスポーツ、高校野球やスケートなど、1年を通じてのスポーツ観戦が可能です。
 - ・地域一体となってプロスポーツチームを応援する「八戸スポーツ振興協議会」があります。
- ・市民ニーズ・意識調査結果では、会場で直接観戦したことがあると答えた人の割合が、21.6%となっています。(国調査 東北地域23.5%)
また、観戦しなかった人が観戦する条件として、観戦費用が安いことや無料チケットがあることと答えた人の割合が合計で21.8%と、観戦したいスポーツが開催されることに次いで、2番目に多くなっています。
- ・プロスポーツ観戦者のニーズ・意向調査の結果では、チケット代を負担することなく試合を観戦している人の割合が、少ないチームでも約25%、多いチームでは約46%となっています。

スポーツを「みる」視点からみた課題

課題(2) - 1: 地域特性を活かしたスポーツ観戦率の向上

- ・本市では、1年を通じて様々なスポーツを観戦する機会があるにもかかわらず、会場で直接観戦している割合が東北地域での割合を若干下回っていることから、市民のスポーツへの興味・関心を高めて地域活性化につなげるため、地域特性を活用して、市民のスポーツ観戦を促進する必要があります。

課題(2) - 2: 「みる」機会創出のための新たな施設の活用

- ・長根屋内スケート場やフラットアリーナといった新しい施設により、今後は、これまでに以上に全国規模の大会や大規模なイベントの開催が可能となることから、これらの施設の活用が必要です。

課題(2) - 3: 地域活性化のためのプロスポーツチームの更なる活用

- ・本市を拠点に活動するプロスポーツチームの地域に根差した活動、「八戸スポーツ振興協議会」などの地域一体となった応援・支援によって、各チームの本市会場での平均観客動員数は増加しており、賑わいを創出していることから、地域活性化に向けて、プロスポーツチームの更なる活用が必要です。

(3) スポーツを「ささえる」視点

スポーツを「ささえる」視点からみた主な現状

強み

- ・うみねこマラソン、国内最多の開催数を誇る冬季国体等の大規模な大会の開催や、プロスポーツチームのホーム戦といった参加・観戦を目的とするイベントやトレイルコースなど、市外からの誘客につながる資源があります。
- ・大会、合宿誘致、イベント開催の円滑な実施やスポーツ関係人材の育成・確保など、様々な分野の団体の協力が必要ですが、現在の活動目的はそれとは違うものの、官民が連携した「八戸スポーツ振興協議会」があります。
- ・大会、合宿誘致、イベント開催とそれに伴う施設利用の受付、宿泊施設の受付など、様々な分野で別々の団体が対応しています。
- ・競技団体へのアンケート調査結果では、活動上の問題点として指導者不足が挙げられています。
- ・小学校のスポーツ活動の主体が、学校から地域へ移行しており、これまで以上に外部指導者の確保が必要です。
- ・競技団体、地区体育振興会へのアンケート調査結果では、いずれも活動上の問題点として担い手不足や資金不足が挙げられています。

スポーツを「ささえる」視点からみた課題

課題(3)－1:「する」「みる」の受入環境の整備

- ・スポーツによる市外からの誘客促進を図るため、本市にある参加・観戦を目的とするイベントなどの資源を活用した受入環境の整備が必要です。

課題(3)－2:「する」「みる」の受入体制の構築

- ・大会、合宿誘致、イベント開催をはじめとしたスポーツ関連事業を効率的に実施するためには、各団体の役割を明確にし、地域一体となった受入体制を構築する必要があります。

課題(3)－3:「ささえる」人材・環境の強化

- ・競技団体での指導者不足の問題や小学校等での外部指導者の必要性の高まりから、指導者の育成、確保が必要です。
- ・また、生涯スポーツ又は競技スポーツを支える重要な基盤の1つである競技団体、地区体育振興会の活動維持が困難になっていることから、その活動の支援が必要です。
- ・さらに、今後、国際大会、国体など大規模な大会の開催を控えていることから、開催時の運営スタッフ等、人材確保を図るための人材・環境の強化が必要です。

これらの課題を解決するため、産学官が連携し、これまで取り組んできた事業は、見直し・工夫を加えて実施しながら、これまでの事業では補えないものについては、新たな事業に取り組む必要があります。

第3章 計画の基本方針と目標

第3章 計画の基本方針と目標

3-1 本計画の基本方針

基本方針

誰もがスポーツを「楽しみたくなる街」の実現と「氷都八戸」の新生

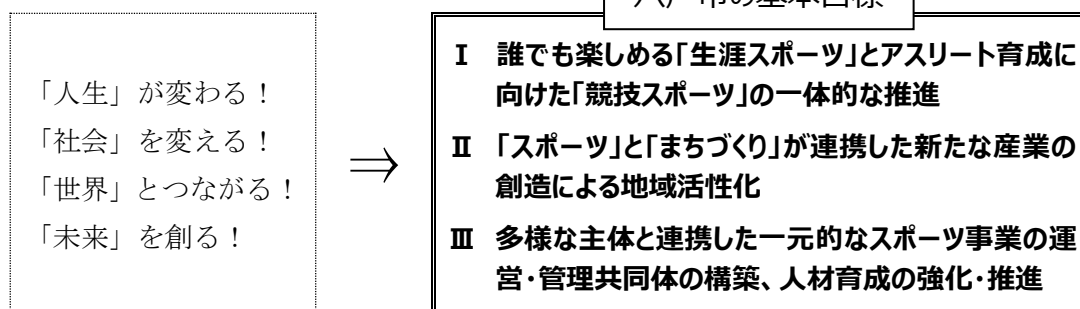
～一年を通じてスポーツを「したくなる」「みたくなる」「ささえたくなる」多様なスポーツ文化の推進と創造～

国の第2期スポーツ基本計画では、中長期的なスポーツ施策の基本方針を

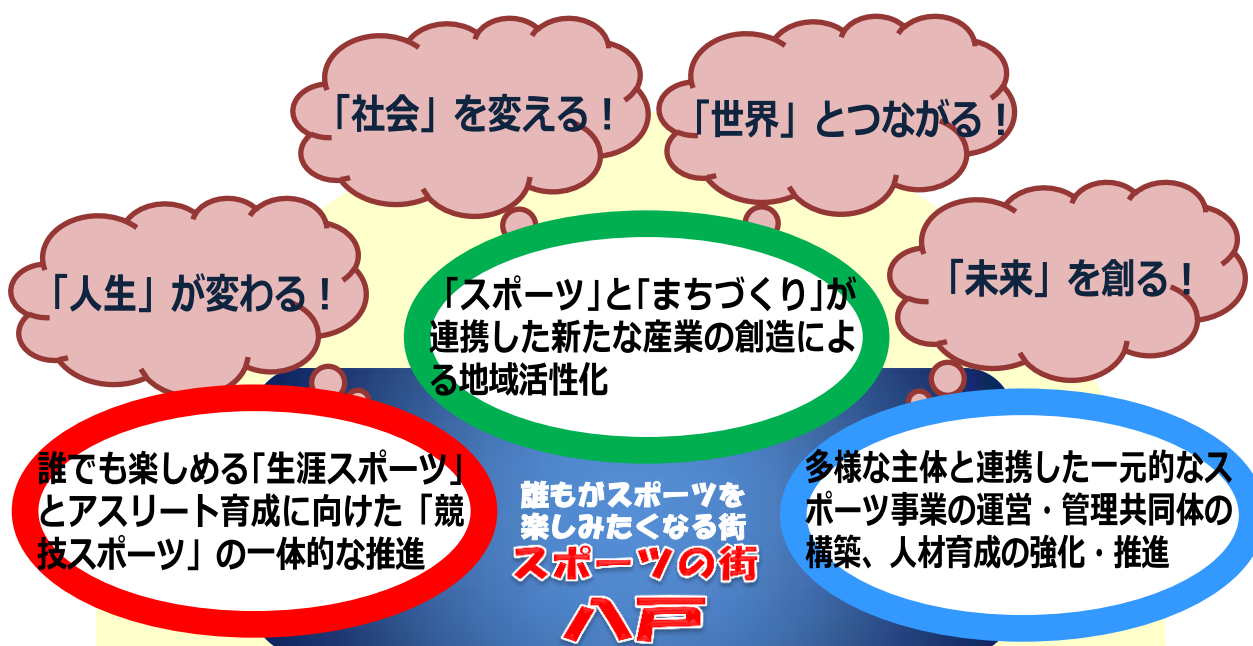
～ スポーツが変える。未来を創る。 Enjoy Sports, Enjoy Life ～

とし、①「人生」が変わる！ ②「社会」を変える！ ③「世界」とつながる！ ④「未来」を創る！ という4つのスポーツの価値を示し、「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むことを促進しています。

本市においては、



以上の3つの基本目標を掲げ、氷都八戸を標榜するスケート競技をはじめとして、1年を通じて多様なスポーツに触れることのできる環境を活かし、市民全員が、「する」、「みる」、「ささえる」いずれかの形でスポーツに関わることで、一人ひとりがそれぞれの目的や価値観でスポーツの価値を実感して輝き、活力のある絆の強いまちとなるよう、この基本方針の下、誰もがスポーツを「したくなる」、「みたくなる」、「ささえたくなる」施策を推進します。



3-2 スポーツ推進の基本目標

(1) 基本目標 I

誰でも楽しめる「生涯スポーツ」とアスリート育成に向けた「競技スポーツ」の一体的な推進

①施策の方向性

市民のスポーツに対するニーズが多様化する中で、市民の誰もが生涯に渡ってスポーツに親しむことができ、健康で元気に暮らせる環境づくりをします。

また、それに合わせて、トップアスリートを輩出している競技環境、新たに整備される施設やプロスポーツチームをはじめとした、トップレベルのスポーツに触れられる機会など、本市にある資源を活用して競技力向上を図ります。

そのためにも、実際にスポーツをする場の確保にも取り組みます。

②数値目標

基本目標 I に対し、数値目標を次のとおり設定します。

表 3-1 基本目標 I の数値目標

指標	目標値（2023年度）
【指標 1：自主的にスポーツをする時間を持ちたいと思う中学生の割合】 ● 子どもの将来的なスポーツ実施率向上を図ります。	80%（国目標値） 現状（2018年度）：約75%
【指標 2：中高年及び高齢者の運動常習者の割合】 ● 40歳～74歳の運動常習者割合の増加を図ります。	60% 現状（2015年度）：40.6%
【指標 3：市又は指定管理者主催のスポーツ教室開催数※】 ● 市民のスポーツに親しむ機会の拡大を図ります。	700回（現状以上） 現状（2017年度）：684回
【指標 4：スポーツ各賞受賞者数】 ● 市民の競技力向上による、スポーツ各賞受賞者数の増大を図ります。	20人（現状以上） 現状（2018年度）：11人
【指標 5：施設利用者数】 ● 市民のスポーツに親しむ場がより多く提供されることを目指します。	1,300,000人（現状以上） 現状（2017年度）：1,188,685人

※今後、計画に沿って施策を進める中で、市又は指定管理者だけでなく、各競技団体等が開催するスポーツ教室開催状況も把握し、指標に含めることとする。

③目標達成のための施策

- 施策 I-1：子どものスポーツ機会の充実と体力向上
- 施策 I-2：学生・社会人・高齢者それぞれのライフスタイル・ニーズに対応したスポーツ活動の推進
- 施策 I-3：スポーツ関係団体、プロスポーツチーム、大学との連携による様々なスポーツを体験できるスポーツ機会の提供
- 施策 I-4：トップアスリートを輩出している競技や新たなスポーツ施設・環境を生かしたスポーツ競技力の向上
- 施策 I-5：トップアスリートとの交流、トップレベルの競技大会への派遣支援
- 施策 I-6：体育施設整備基本方針に基づくスポーツ施設の維持管理などによる活動場所の確保

(2) 基本目標Ⅱ

「スポーツ」と「まちづくり」が連携した新たな産業の創造による地域活性化

①施策の方向性

本市では、長根屋内スケート場やフラットアリーナが完成予定であることから、これらを活用した大会誘致・イベント開催等を行うことで、市民がスポーツを「みる」機会を創出します。

また、複数のプロスポーツチームが本市を拠点として活動しており、チームの活躍によって地域に活力が生まれていることから、より多くの市民の興味・関心を高めることで更なる活力を創出するよう、地域一体となったホームタウンづくりを推進します。

さらには、八戸うみねこマラソン全国大会、国民体育大会などの全国規模の大会等、市内外から多くの参加者・観戦者が集まるイベントがあることから、これらを活用した誘客を推進するとともに、スポーツに観光を掛け合わせたスポーツツーリズムにも取り組みます。

②数値目標

基本目標Ⅱに対し、数値目標を次のとおり設定します。

表 3-2 基本目標Ⅱの数値目標

指標※	目標値（2023年度）
【指標 6：市民の会場でのスポーツ観戦率（年1回以上）】 ● より多くの市民が会場で直接スポーツを「みる」ことを目指します。	26.8%（H30国調査） 現状（2018年度）：22%
【指標 7：長根屋内スケート場の利用者数】 ● より多くの市民がトップレベルのスポーツや興行に触れ、賑わいが創出されることを目指します。	314,399人 （第3期中心市街地活性化基本計画目標値） 現状（2018年度）：70,000人 〔長根公園パイピングスケートリンク（参考値）〕
【指標 8：市内プロスポーツチームのホームゲーム来場者数（1試合平均）】 ● より多くの市民が市内プロスポーツチームを応援することを目指します。	1,800人（現状以上） 現状（2018年度）：1,630人

※今後、計画に沿って施策を進める中で、スポーツを軸に産業が活性化した事例等を踏まえ産業の活性化を評価する指標設定することとする。

③目標達成のための施策

施策Ⅱ-1	：スポーツ施設の新設に合わせた継続的な競技大会・イベントの開催
施策Ⅱ-2	：地域一丸となったスポーツへの興味・関心を高めるための環境づくり
施策Ⅱ-3	：産業とプロスポーツチームの連携による、地域産業・地場産品等PRの展開
施策Ⅱ-4	：スポーツ体験・観戦を活用したスポーツツーリズムの推進

(3) 基本目標Ⅲ

多様な主体と連携した一元的なスポーツ事業の運営・管理共同体の構築、人材育成の強化・推進

①施策の方向性

本市で新たに完成予定のスポーツ施設や、従来から合宿利用が多いアイスホッケーリンクを活用した継続的な大会・合宿等の誘致を推進します。

また、競技団体、地区体育振興会などの地元団体や、指導者、誘致イベント開催時の運営スタッフとなるボランティアなどの本市のスポーツを「ささえる」人材・環境を強化します。

なお、特に指導者等の人材の確保に当たっては、教育委員会と連携して小学校スポーツ活動や中学校運動部活動の動向を踏まえるとともに、アスリートのセカンドキャリアを活用するための仕組みづくりに取り組みます。

さらに、これらをより効果的に推進するため、市をはじめ、スポーツ関係団体、産業経済団体、教育機関等、様々な機関と連携し、スポーツ事業を一元的に行う「地域スポーツコミッション※」の設立に取り組みます。

※地域スポーツコミッション：

地方公共団体とスポーツ団体、観光産業などの民間企業が一体となって、スポーツへの参加や観戦を目的とした旅行や、スポーツと観光を組み合わせた取組である「スポーツツーリズム」、域外から参加者を呼び込む「地域スポーツ大会・イベントの開催」、国内外の大規模な「スポーツ大会の誘致」、プロチームや大学などの「スポーツ合宿・キャンプの誘致」など、スポーツを通じた地域振興の中心的存在として活動する組織。

②数値目標

基本目標Ⅲに対し、数値目標を次のとおり設定します。

表 3-3 基本目標Ⅲの数値目標

指標	目標値（2023年度）
【指標9：スケート競技での合宿団体数（年間）※】 ● 本市の特性であるスケート競技の継続的な合宿誘致に取り組みます。	42団体（現状以上） 現状（2018年度）：24団体
【指標10：地域スポーツコミッションの設立】 ● 大会・合宿等受入のワンストップ窓口の設立に取り組みます。	地域スポーツコミッションの設立 現状：無
【指標11：スポーツ少年団指導者登録者数に占める認定員有資格者の割合】 ● スポーツ少年団指導者の子どもへの指導力向上に取り組みます。	70% （2018年度全国平均以上） 現状（2018年度）：59.8%

※今後、計画に沿った施策を進める中で、スケート以外の競技についても合宿団体数も把握し、指標に含めることとする。

③目標達成のための施策

施策Ⅲ-1	本市のスポーツ施設・環境の特性を活用した大会・合宿の誘致
施策Ⅲ-2	大会・合宿時の会場、宿泊、観光等のワンストップ窓口の管理・運営の推進
施策Ⅲ-3	地域スポーツを「ささえる」人材・環境の強化

第4章 施策の推進

第4章 施策の推進

4-1 基本目標Ⅰに対する施策

基本目標Ⅰ：誰でも楽しめる「生涯スポーツ」とアスリート育成に向けた「競技スポーツ」の一体的な推進

施策Ⅰ-1：子どものスポーツ機会の充実と体力向上

関係団体：市、スポーツ関係団体、プロスポーツチーム、教育機関 等

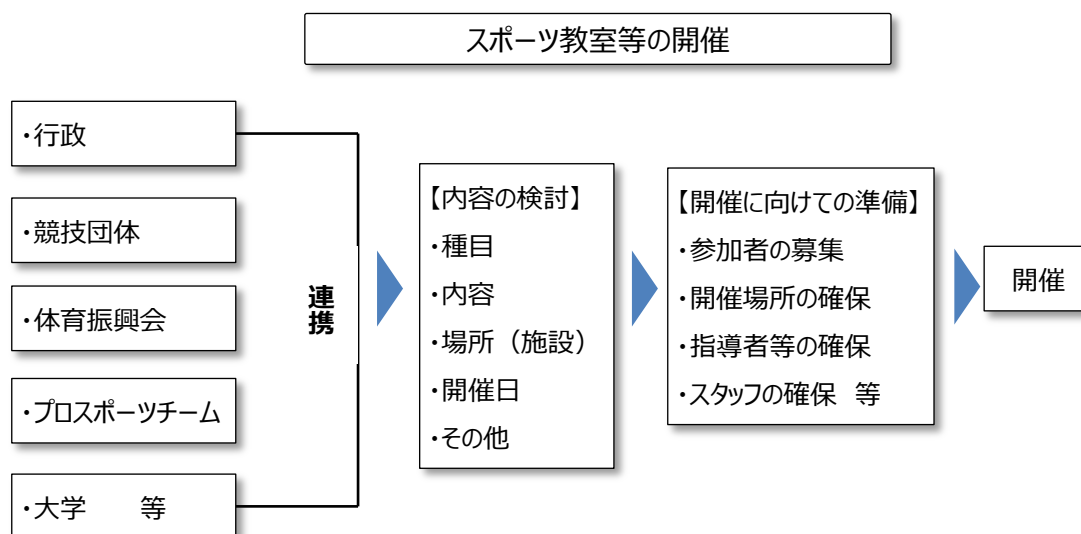
① 子どもの「運動遊び」の推進、親子で親しみ楽しめるスポーツ環境づくり

子どもの「運動遊び」に関する情報提供や幼児向けプログラム、基礎運動の基盤を作る0～2歳児・3～5歳児における親子一緒でのレッスン教室やイベント時の親子スポーツ体験コーナーの実施などにより、“遊び”からスポーツにつながるきっかけづくりとなる取組を推進します。

また、オリンピックなどトップアスリートによる講演などにより、子ども達のスポーツへの関心度を刺激し高めるきっかけづくりを行います。

② 「運動遊び」から「競技」に繋がるスポーツ活動・体験の充実

小学生を対象にしたスポーツ体験教室やスポーツクリニックの開催、スポーツ少年団の活動支援など1年を通じて多様な運動やスポーツを体験する機会の充実を図ります。



▲ヴァンラーレ八戸によるサッカー教室の開催（八戸市立南郷小学校）
出典：八戸市

施策Ⅰ-2：学生・社会人・高齢者それぞれのライフスタイル・ニーズに対応したスポーツ活動の推進

関係団体：市、スポーツ関係団体、プロスポーツチーム、教育機関 等

③ 運動不足解消・健康増進に繋がるスポーツ環境づくり

多様なライフスタイル・ニーズに対応するため、子育て世代・企業等へのニーズ調査を実施。多様なスポーツ教室を開催し、就職・結婚、育児等による生活様式の変化による運動不足解消・健康増進を図ります。

また、運動と健康づくりに関する正しい知識などを身近な人に伝える仕組みづくりなどにより、情報提供から健康増進に繋がるスポーツ環境づくりを行います。

④ 高齢者・障がい者のスポーツ活動の充実

高齢者の健康づくり・生きがいづくりや、障がい者の健康維持・社会参加の促進などを図るため、市関係部署や関係団体との連携により、高齢者・障がい者のスポーツ活動の充実を推進します。



▲プロスポーツチーム、大学によるスケート教室の開催（青森県立八戸盲学校・聾学校）
（東北フリーブレイズ、八戸学院大学アイスホッケー部） 出典：八戸市

施策Ⅰ-3：スポーツ関係団体、プロスポーツチーム、大学との連携による様々なスポーツを体験できるスポーツ機会の提供

関係団体：市、スポーツ関係団体、プロスポーツチーム、教育機関 等

⑤ 市民ニーズを踏まえた、スポーツイベントの開催・支援

スポーツ関係団体、プロスポーツチーム、大学と連携して、市民の誰でもスポーツに親しみ、様々なスポーツが体験できるよう各種スポーツ体験教室や、市民参加型の各種スポーツイベントの開催・支援を行います。また、多様な市民ニーズに対応するため、過去のデータの活用や市民ニーズ調査等を実施します。

施策Ⅰ-4：トップアスリートを輩出している競技や新たなスポーツ施設・環境を生かしたスポーツ競技力の向上

関係団体：市、スポーツ関係団体、プロスポーツチーム、教育機関 等

⑥ ターゲット種目を設定した戦略的なスポーツ競技力の向上

「長根屋内スケート場」が整備されるスピードスケートや、オリンピックメダリストを輩出する競技環境を持つレスリングなどの強みを更に伸ばします。



▲小学生スピードスケート大会の様子
出典：八戸市スポーツ少年団



▲子ども達のレスリング教室の様子
出典：八戸市

⑦ スポーツ関係団体、プロスポーツチーム、教育機関と連携した競技者育成プログラムの構築

スポーツ関係団体、プロスポーツチーム、教育機関と連携し、本市の競技環境・施設の特性を活用した競技者育成プログラムの構築を図ります。

⑧ オリンピックメダリスト等の顕彰

スポーツ分野において多大な功績を残された方を顕彰することにより、競技者の意欲・関心を高めることはもちろん、競技者以外の人々が競技に取り組むきっかけをつくります。



▲女子レスリングオリンピックメダリスト顕彰コーナー（はっちに展示）
出典：八戸市

施策Ⅰ-5：トップアスリートとの交流、トップレベルの競技大会への派遣支援

関係団体：市、スポーツ関係団体、プロスポーツチーム 等

⑨ トップアスリートの招聘による交流イベント・シンポジウムの開催

トップアスリートから直接の指導・講話を受けることで、トップレベルの技術を学ぶとともに、競技への更なる関心・意欲の向上を図り、競技力向上へつなげます。



▲長野五輪銅メダル 岡崎朋美さんを招いてのスケート教室
出典：八戸市

⑩ トップレベルの競技大会への派遣支援

トップレベルの競技大会に出場しやすい環境をつくることで、スポーツ活動への意欲を高め、競技力向上を図ります。

施策Ⅰ-6：体育施設整備基本方針に基づくスポーツ施設の維持管理などによる活動場所の確保

関係団体：市、教育委員会、教育機関 等

⑪ 八戸市体育館の建て替え、その他体育施設の維持管理

八戸市体育施設整備に関する基本方針の下、八戸市体育館の建て替えを最優先に、既存施設を有効活用するための維持管理に徹底して取り組みます。

⑫ 学校体育施設、社会教育施設と連携した活動場所の確保

八戸市体育施設整備に関する基本方針では、様々な分析により、体育施設の総量は適正としていることから、現状の利用者数増加による施設の逼迫に対しては、本市の学校体育施設や社会教育施設、また、連携中枢都市圏内の他の町村と連携した活動場所の確保のしかたを検討します。

⑬ 誰でもスポーツ施設が利用しやすい環境整備

市民が、施設の管理者の別にとらわれずに、全市有スポーツ施設の利用状況の確認や施設の利用予約ができるよう、予約システムの運用等により、施設を利用しやすい環境を整備します。

4-2 基本目標Ⅱに対する施策

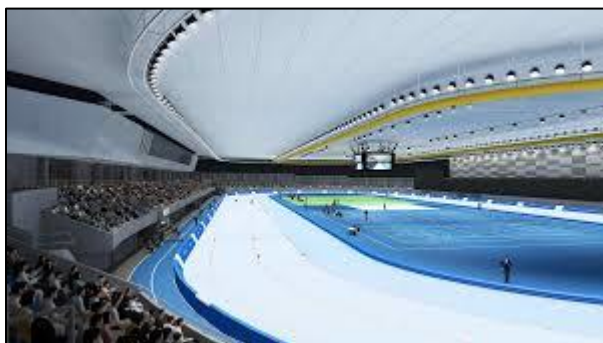
基本目標Ⅱ：「スポーツ」と「まちづくり」が連携した新たな産業の創造による地域活性化

施策Ⅱ-1：スポーツ施設の新設に合わせた継続的な大会・イベントの開催

関係団体：市、スポーツ関係団体、プロスポーツチーム、民間企業 等

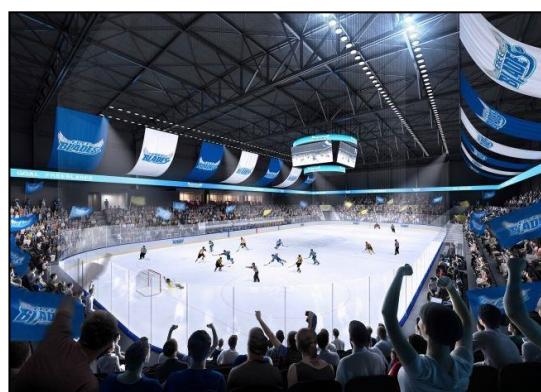
⑭ 新しいスポーツ施設での大会・興行等の開催推進

「長根屋内スケート場」、「フラットアリーナ」での大会・興行等の開催を推進することで、市民のスポーツの観戦機会提供と地域活性化を図ります。



▲長根屋内スケート場での大会開催イメージ
出典：八戸市

▼フラットアリーナでの興行開催イメージ
出典：クロススポーツマーケティング株式会社



施策Ⅱ-2：地域一丸となったスポーツへの興味・関心を高めるための環境づくり

関係団体：市、スポーツ関係団体、産業経済団体、プロスポーツチーム、地元企業、教育機関 等

⑮ プロスポーツ、各種大会の「みる」スポーツの機会提供・充実

プロスポーツチーム・スポーツ関係団体と連携し、市民がスポーツを「みる」ことへの興味・関心を高めるため、試合や各種大会を「みる」機会の提供・充実を図ります。

⑯ プロスポーツチームと市民の交流促進、意識醸成によるホームタウンづくり

市内のプロスポーツチーム・各団体と連携し、プロスポーツチームと市民の交流促進、観戦機会の提供など市民が一丸となってプロスポーツチームを応援する機運を醸成し、観戦機会及び応援機会の拡大を図ります。

⑰ アマチュアもプロも、地域スポーツを観戦・応援する体制づくり

観戦費用が比較的安価またはかからないアマチュアスポーツの観戦機運醸成により、これまでスポーツ観戦をしていなかった人の観戦意欲を高め、アマチュアスポーツをきっかけにスポーツを「みる」魅力を知ってもらうことで、プロスポーツの観戦意欲向上を図ります。

また、アマチュアからプロまで一貫した共通の応援体制についても検討します。

施策Ⅱ-3：産業とプロスポーツチームの連携による、地域産業・地場産品等PRの展開

関係団体：市、スポーツ関係団体、産業経済団体、プロスポーツチーム、大学、地元企業、観光DMO 等

⑱ 「スポーツ」と「地域産業」の連携によるグッズ作成、物産の商品開発・PR戦略の実施

本市の地域産業とプロスポーツチームの連携によるグッズ作成、商品開発や、市内のプロスポーツチームと連携し、試合やイベント開催時などを利用したPR戦略を展開し、新産業の創出を図ります。

施策Ⅱ-4：スポーツ体験・観戦を活用したスポーツツーリズムの推進

関係団体：市、スポーツ関係団体、産業経済団体、プロスポーツチーム、地元企業、観光DMO 等

⑲ 「スポーツ」と「観光」の連携による体験ツアー・スポーツツーリズムの造成

市外からの旅行者が、観光とともにスポーツ体験や観戦もできるツアーの企画などにより、「する」・「みる」スポーツを活用した誘客推進と地域活性化を図ります。

なお、スポーツ体験としては、観光名所のトレイルやサイクルマップを活用したウォーキングやサイクリングなど、気軽に楽しめるアウトドア体験もスポーツとしてとらえて活用します。

スポーツツーリズムとは

我が国の優れた
スポーツ資源



旅行／観光
ツーリズム

世界的にもハイレベルな 観るスポーツ

ビジターの観戦者がご当地グルメや周辺観光を楽しみ、また観光客が滞在プランの一つとしてスポーツ観戦も加えることで、旅行内容の充実のほか、各スポーツの普及振興、そして地域活性化を目指す。

プロ野球、Jリーグ、ラグビー、バレーボール、プロゴルフ、大相撲、F1、柔道、総合格闘技 .etc

世代を超えて人気を集める するスポーツ

マラソン等の参加者が応援の家族と共に温泉など周辺観光を楽しみ、また観光客が入浴前の一汗としてテニス等に勤しむことで、旅行内容の充実のほか、健康の増進、スポーツ施設の有効利用、スポーツ用品・ファッションの需要喚起、そして地域活性化を目指す。

マラソン、ウォーキング、サイクリング、登山、トレッキング、トライアスロン、スキー、ゴルフ、草野球 .etc

地域や国が一体となり携わる 支えるスポーツ

スポーツチームの地域経営や市民ボランティアとしての大会支援、地域や国を挙げての国際競技大会・キャンプ（スポーツ合宿）の誘致により、交流人口の拡大、地域活性化、地域・国の観光魅力の効果的発信を目指す。

プロリーグ運営、国体、インターハイ、マラソン大会、合宿誘致、運動会、五輪、各種国際大会、各種世界大会、総合型地域スポーツクラブ .etc

▲スポーツツーリズムとは

出典：観光庁

4-3 基本目標Ⅲに対する施策

基本目標Ⅲ：多様な主体と連携した一元的なスポーツ事業の運営・管理共同体の構築、人材育成の強化・推進

施策Ⅲ-1：本市のスポーツ施設・環境の特性を活用した大会・合宿の誘致

関係団体：市、スポーツ関係団体、産業経済団体、プロスポーツチーム、地元企業、教育機関、観光DMO 等

⑳ スケートリンクを活用した継続的な大会・合宿等の誘致に向けたプロモーション

新たに完成予定の「長根屋内スケート場」、「フラットアリーナ」や、従来から合宿に利用されているアイスホッケーリンクを活用した、継続的な大会・合宿等の誘致を推進します。

㉑ SNS等を利用した観光資源PRによる誘致戦略

大会・合宿誘致時におけるPRのひとつとして、種差海岸・館鼻岸壁朝市・八食センターや三社大祭・八戸えんぶり等の豊富な観光資源やイベントを活用し、SNS等による情報提供・拡散によるPR戦略を図ります。



▲館鼻岸壁朝市 出典：八戸市



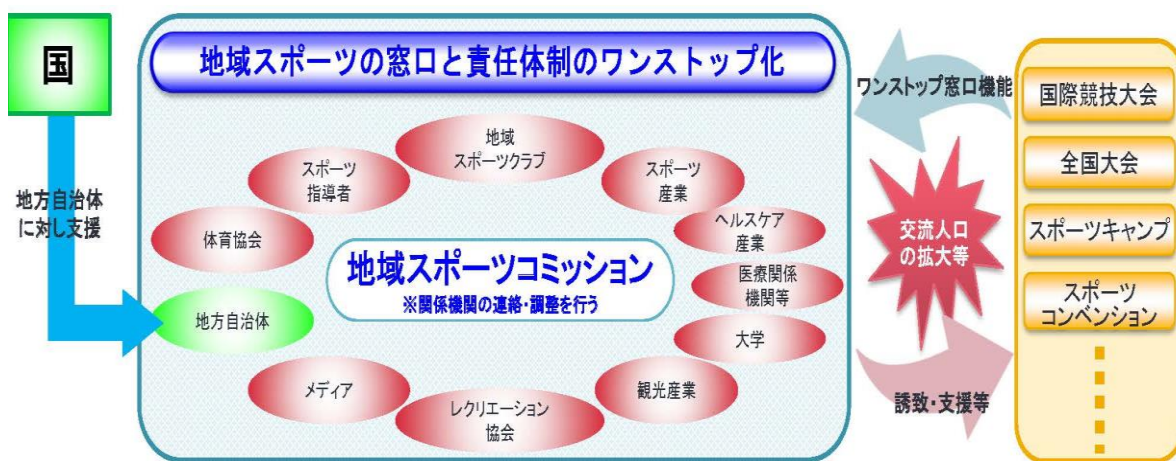
▲種差海岸 出典：八戸市

施策Ⅲ-2：大会・合宿時の会場、宿泊、観光等のワンストップ窓口の管理・運営の推進

関係団体：市、スポーツ関係団体、産業経済団体、プロスポーツチーム、地元企業、教育機関、観光DMO 等

② 各団体と連携した地域スポーツコミッションの設立と管理・運営

市と各団体が連携して、大会・合宿時の会場・宿泊・観光等をパッケージ化したワンストップ窓口となる地域スポーツコミッションの設立と管理・運営を行うとともに、当該地域スポーツコミッションで、本市の「ささえる」スポーツの調整役を担います。



▲地域スポーツの窓口と責任体制のワンストップ化 出典：スポーツ庁

施策Ⅲ-3：地域スポーツを「ささえる」人材・環境の強化

関係団体：市、スポーツ関係団体、産業経済団体、プロスポーツチーム、地元企業、教育機関 等

③ 競技スポーツ指導者の育成と確保

スポーツ関係団体と連携し、スポーツ活動に活用できる資格の保有者や経験者など人的資源を有効に活用し、人材を確保するとともに、指導者講習の受講支援制度などにより、受講しやすい環境づくりを推進することで、指導者の資質向上を図ります。

④ 大会及び合宿誘致時の運営体制の構築

大会及び合宿誘致等に当たっては、一時的な運営スタッフが必要になることから、市民ボランティアの育成・管理と合わせて、持続可能な運営体制の構築を図ります。

⑤ スポーツ関係団体の活動支援

市民がスポーツに親しむ機会の創出、競技者の競技力向上等において重要な基盤の一つである競技団体、地区体育振興会の活動を支援します。また、小学校のスポーツ活動の主体が、学校から地域へ移行していることを踏まえ、受け皿となる総合型地域スポーツクラブを支援することで、地域スポーツの振興を推進します。

⑥ アスリート等のセカンドキャリア活用

本市には、複数のプロスポーツチームがあり、選手、スタッフとしてスポーツに精通した人材が活躍していることから、プロスポーツチームをはじめ、スポーツ関係者を対象とした人材のセカンドキャリア支援体制を構築することで、本市で活躍した人材の本市への定住はもちろん、市外で活躍した人材の本市への移住を促進し、指導者等のスポーツ関係人材の確保を図ります。

第5章 スポーツ推進計画の実現に向けて

第5章 計画の実現に向けて

5-1 関係する主体と基本的な役割

本計画の実行に当たっては、行政と関係機関、スポーツ団体等が連携し、一体的に取り組むとともに、必要に応じて外部団体等の客観的な視点からの助言・補助を加えて、施策を推進します。

表 5-1 関係団体と基本的な役割

区 分	団体	役割
八戸市	住民	・ 計画に沿った施策が推進されることで、市民の誰もが健康で、輝き、豊かなスポーツライフを送ることができる。
	行政	・ 地域のスポーツ団体や関係機関と連携しながら、市民がスポーツに親しむために環境づくりに努める。 ・ スポーツ推進に向けた体制づくり、調整等を行う。
	【スポーツ関係団体】 競技団体 地区体育振興会 総合型地域スポーツクラブ	・ 競技の指導や大会開催・合宿誘致の他、関係機関と連携したスポーツ教室の開催など、スポーツ推進・振興に向けた取り組みを支援する。
	プロスポーツチーム	・ 試合観戦等で市内外の交流人口を拡大させるとともに、関係機関と連携し、指導者としての地域への派遣の他、スポーツ教室やイベント等の社会貢献活動による地域との共生を図る。
	その他関係機関	・ その他関係機関と連携し、スポーツ推進・振興に向けた取り組みを支援する。
外部団体等	有識者	・ スポーツ推進に向けた計画の策定にあたり、専門的な立場から助言を行う。
	国・県	・ 市町村で行うことが困難な広域的な事業を実施するとともに、スポーツ推進・振興に向けた助言、支援を行う。
	コンサルタント	・ スポーツ推進・振興に向けた計画策定等の支援を行う。

5-2 計画の進行管理体制

本計画の着実な推進を図るため、計画期間内において、毎年度、計画に登載している施策・事業の進捗状況を調査し、関係部署と連携して本市のスポーツを取り巻く情勢の変化などを適切にとらえた上で取組内容を評価するとともに、教育委員会から意見を聴取して、事業に見直しや工夫を加えながら進行管理を行います。

なお、将来的には、必要に応じて、内部のみでの進行管理から、外部委員を含めた審議会等での進行管理へ展開も検討することとします。

5-3 計画の進行管理・マネジメント

本計画の全体の推進については、各事業の達成状況について継続的にモニタリングを実施し、PDCAサイクル（計画（Plan）、実行（Do）、検証（Check）、改善（Action）の循環検討手法）の考え方にに基づき検証します。

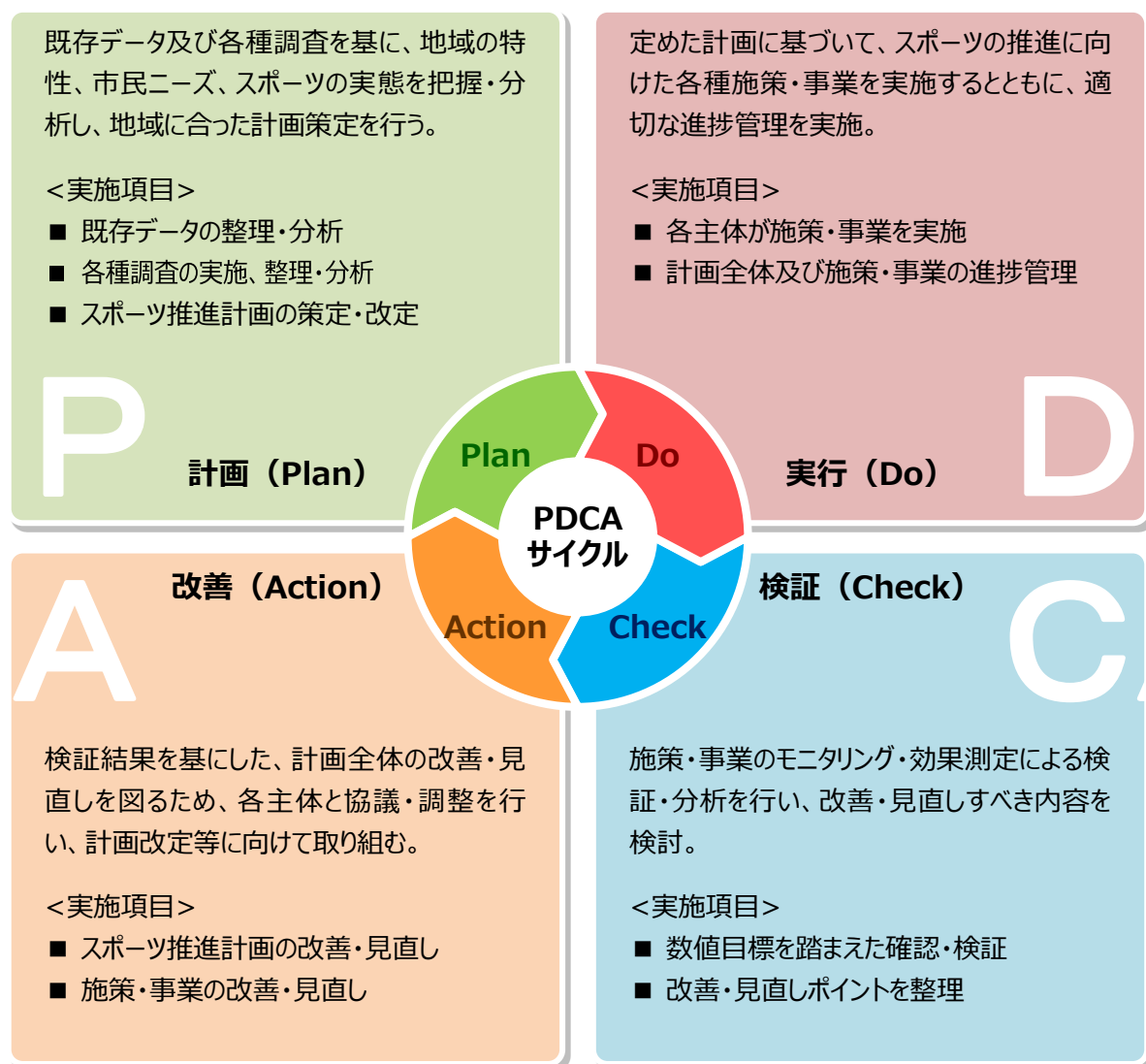


図 5-1 PDCAサイクルイメージ

表 5-2 PDCAサイクルにおける評価事項と評価方法

PDCAサイクル	評価事項	評価方法
毎年実施する PDCA	事業実施状況の評価 (年に1回実施)	事業内容にあった指標を設定して評価を行い、必要に応じて改善を行う。
長期的に実施する PDCA	目標達成度の評価 (計画の中間と期間のまとめとして最終年に実施)	計画の目標達成度合の把握を行い、未達成項目がある場合は重点的取組を行う。


(仮称) 八戸市スポーツ推進計画策定意見交換会参集人員名簿

(50音順・敬称略。役職等は、策定時のもの。)

氏名	役職等	専門部会
イワダテ チホ 岩館 千歩	青森スポーツクリエイション株式会社 青森ワッツ チアダンスチームブルーリングス チアスクールディレクター	みる
コイズミ リウ 小泉 亮	株式会社ビーエフエム パーソナリティ	みる
ザイケ ヒデノリ 在家 秀則	公益社団法人八戸観光コンベンション協会 専務理事	みる
シマワキ ヨウゾウ 嶋脇 洋三	八戸市体育協会 常任理事	する
スズキ 鈴木 あゆみ	元長野オリンピック女子アイスホッケー日本代表 レディースラビッツアイスホッケークラブ プレーイングコーチ しつもんメンタルトレーニング トレーナー	する ささえる
タケヤマ ヤスシ 武山 泰	八戸工業大学 システム情報工学科長・教授	ささえる
ナカジマ ヒトミ 中島 仁実	NPO法人東北海道スポーツコミッション 理事長	する ささえる
マツヤマ マサヨシ 松山 政義	八戸学院地域連携研究センター センター長	みる
ミズノ マサオ 水野 眞佐夫	北海道大学大学院教育学研究院 教授	する
ヤマシタ ヒロシ 山下 祐史	八戸学院大学 学務部教務学生課係長 (ラグビー部 ヘッドコーチ)	する みる ささえる
ヨシダ フミオ 吉田 富三夫	八戸商工会議所 常務理事・事務局長	する ささえる

<アドバイザー>

オカザキ トモミ 岡崎 朋美	1998年長野オリンピックスピードスケート女子500m銅メダリスト。 平成27年度から、本市主催のスピードスケート教室の特別講師を務めており、 平成31年2月の長根リンククローズングイベントにも出演。 本計画の策定に当たり、御自身の経験を基にアドバイスをいただく。
-------------------	---



八戸市スポーツ推進計画

- [発 行 日] 平成31年3月
[作 成] 八戸市
[問 合 せ 先] まちづくり文化スポーツ部 スポーツ振興課
〒031-8686
青森県八戸市内丸一丁目1番1号
TEL 0178-43-2111 (代) FAX 0178-45-2077
[ホームページ] <http://www.city.hachinohe.aomori.jp>
- 